俳諧類船集 卯二

俳諧類舩集巻三

与

ふゆこもり

みなし山 狭山（さやま） 招魂（をぎよう）の社（やしろ）と 引（ひく）

山中（やまなか）や 菊（きく）なき宿（やど）の 菜（な）の花（はな）

婦（よめ）

秋（あき）の子（こ）の 遠（とを）き空（そら）の 雁（かり）

ひん白（ぱく）の ところ〴〵の 若苗（わかなへ）と

その今（いま）〴〵の 婦（よめ）ようの 作（つくり）

聟（むこ）よ 内（うち）の 姉（あね）よ

されハ人も住よすろそかくるゝき

蓬生

荻の声 淋しさ夕 やもめ住
虫の音 夜嵐 さ莚 老木の杜
蛍 秋の暮 観音の名号 月と律 虫
叢なる宿 源氏の君 常陸の宮

横笛か笛を綴そて遠く聞へ これを秋の夜とはぬ
ろうとよもつてらつく宮を訪ね所を尋ね蓬生まゝつも
らるゝも哀れなるふうしきねの宗貞か家を訪ね荒
くる宿かに立寄られハ内よりのき給ひあれてある
宿と学者のひとくとなくやされとくるまさん

葭

蚊火 吹茶 下紙窓 蠟燭 葉のさや
垣 簾 壁下紙 雀 五位鷺

入江 伏見

近江の海をこえても又はしとわしとふおもひるの
やうに芦刈よまの葭ハ難波の旅ねまよし

夜着

草 祭 馬 四天王 素襖の毛
雛 人形 牡丹

数々義の八重つの夜着は風にふられてちゞれと夜に

かくゐ給とかゝりて佐藤兄弟の夜ハ二人のくりよきせ
られ給はりけせり堀川の夜ハ二人の夜ハ会て
てとよりの大塔の坐主の宮をらゆりさる武士の姿
にかはり世話知をとびしの夜にくさの甲は
てと落られてそろり夜直よりゐ是をもつてつと

夜討

曽我兄弟 堀川の御所 佐渡が嶋 熊坂
菅公の大豆 天狗礫 月にまぎる
灯のかげの碁 丑の時の太鼓

すゝ夜毎にやゝ後の大名置の皇居をもやぶりし比類なき
働ならり田草八牛とるらて燕の軍をもやぶりけ
ある謀よりくやすらり保元の義朝為朝の評定
も夜討より御なしとや

夜通し

月ノ矢数 キセルさらへ
尺八 火吹竹 筧の水
早使 いとこの細工 魚荷

信心の念仏ハ晨朝までつとめて往来まわりそまう夜参り
あり大坂下の川舟ハ夜のあかりをみて番請した
稼をせてつとりそ早鞍の附ハ小田の夜のあさまで
すゝ稲刈ハ夜明まで奏するに七日の夜と至十六日

のそれとも云よし

夜這(ヨバヒ)

星　虻　虫　竹の露　猫の妻
鳥羽や　座頭(ザトウ)坊

源氏の中将の宿直をしはやられけり。女のそう
ありしよりて年経(ネンブン)にまことひとりけりと伝
わりよりやうの。卓文君が相如にそひしも
よばひの類なるべし

通夜(ヨモスガラ)

日待　番所　読経　念仏　踊(ヲドリ)
あらこもりし　雛面(ヒナキ)とくとく
産所(サン)の伽(トギ)　学問　博奕(バクチ)

夜もすがらとやきくのつげにおきてとよみけり。春
従春遊夜専夜(ヨルハヨルヲモツパラニス)ともいへり。病人とおりしたる人は気の毒
なり月夜もよしとなしは絶(タユ)る事もやさしき
さびしかりし

夜寒

擣衣　冬ちかき　稲葉(イナバ)のちの袍
露(ツユ)の附合　麻衣(アサ)　露の下庵(シタイホ)
こぼるゝす　絹のちる音　鳴の羽音　温酒(ヌクメザケ)
三幡の跡　月の下　よわる虫の音

鉢(ハチ)の木を切りて八也の源にて常陸(ヒタチ)の

おもくへしとうわれれきぞ。秋まさきは芙蓉のむさ
くふなる物をぞ。秋きむさしそとおもふと芦火の
もて我もわれもと松風よろこんでり

涎(ヨダレ)

牛　中風やみ　昼寝(ヒルネ)　うれしかり
酒屋の門外　尺八　童　老人
瘡(カサ)茶

笑も声も似たなき涎をたらしてさめたるものも
しとなど牛の涎(ヨダレ)をたらす。道逢(ニ)麹車(ニ)口流
涎(ヨダレヲ)と杜甫詠せり。物臭ひをかけける

柴門(ヨステノト)

君なき　別れ中　法師入絶
柴の戸　窓の内　亀山のふもと
小町が奥(オク)　嵯峨の奥　吉野山　高野山
花山　横川(ヨカハ)　二妻狂(メグルヒ)　まんさ　男なき

竹の杖つき

方丈をむすびそれ山より出る道は明也。伯夷叔
斉の首陽山に入りかさねのに。陶朱公の
小船に竿(サヲ)さしけれやがて葭房のほとり
国家の為につくせし。親の勘当(カンダウ)とうけたる者のおもひ
はかなれとも云かし

世の中

笛 尺八 火ともし竹 竹樋 百姓

家明寺ノ百首

世中にさもあらばあれ山里は

[illegible]

春のる

三ケ月 媒酒 君待 明星

春の月 茶師糸

四辻

占馬 犬 番屋 公家 稚子

塵塚 すまふ 乳 振袖

用心

盗人 火ともし 旅夜道 陣処

病者の食 風吹関 神名

齢

竹 文 立鏡 玉

文使 [illegible] 住吉 塔

[illegible] 亀の甲

欲

[illegible] 垢 婬乱 目 多門

[illegible] さいの神

贖 ヨミ

哥仲倫語 殘かゞ 文字

機人數 勸を根 芸分の天皇

六疋の馬を數そろ ろハ詳かゞ公とや

三位のそ〳〵ねをそろ ろ 勅使こそその四ん

ふくよむ あんどの文 次のまう 讀 昏不破費讀

昏万倍利と王荊公が勸学文よまり 孫八人のまう

けをよむこそ

哯 ヨブ

淀舟 女房 絶死 おさう名 鳥

文あるる 客人 亡者の迴向 海士 交

墓頭有酒莫呼客と朗詠 みてこう 商賈人の

町とわりくいなべてこう 商人 歌坊 立 ふぶ

人のあ 迎武者をふぶる名せん。前者呼 後者

應とそ〳〵 醉翁亭ノ記なり。韻鏡 こ字の声 線

ふぶこう

よむ

水 船 馬 双六ノ賽

月水

川の風のをこう ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ

ろうとよめり 行の覧のもと ろ ろ ろ ろ ろ ろ

みあわ 風 ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ

ろをとをたく ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ

覧 千鳥 鹿 沢 栄 一 土月 夜

柳 竹 する

山際の里 村 菴

秋の田よ紅葉 ろ 高山里 ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ

ろ ろ。猶石田無所用注 石田不

可耕と史記よ ろ ろ ろ。見竜在田 利見大人と

乾卦の九二なり。燕八田の五 て巣をつくり子九の

糞をそこそこそ ろ の田 ろ ろ ろ や。有田不耕舎

廩屋と楽天もり ろ ろ ろ

田面 タノモ

鳴 みそ 北

サギ

八朔 伏見

高刈田のおもとあわ。ふ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ

ぬる田面よ牡鳳そ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ

ろや。格物 ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ

ろ高久面 ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ

多波粉 タバコ

長崎 物見の芝居

傾城 馬主 寐起

切疵 膏薬 丹波 毒

の日六神ともわのさぼしてうりとうや。ころ
ほくろ他のえ物ようなくさみて豆のとそ
ころくろしと日ニハ船以前おおやうのちきせ
めいなり

橘 タチバナ

五月雨 時鳥 うつ
苔の宿 うつ
軒の下風 蓬の露 五月闇 夜の月 古き
小ふ雨う傍 ほ階のもと 大内の通 民蛇
蓬莱 餓ろ 軒端 諸兄 楠 木の免
葛城の大君 茶 鍬子 時ふ娘 ふ
冠のうちより橘とほそろ。橘の枝をうん
ふ祝つ。ほそて位わろ。陸續
ぐろところよ入一ハ母にをくらんとこ。三皇五帝之礼
義法度其猶相梨橘柚耶と莊子に云り。左敗
洞庭橘右擔彭蠡魚とうう
いうそうけとうそむしの人の袖のうそすうとずしけ
つ。遺常世国求二香菓一今謂橘と。垂仁天皇の御宇
名。うなり一枝八苔の巻右ふ咲る
ひおとハ梅のうそ

竹の筒 ツヽ

香水 のぞきー 花蛭
油 犬川 おろおり 火ふく
星とう窗

竹の子

笠 孟宗 女三の宮 茗荷
窓の蜘蛛 祇園會山
冷泉院へたりんなりもう也治とそ。その本にふるひ
もなし紀行のみハうつんを。松尾芭蕉翁。
坡勝冬生筆ヲ松京ら支倶人と作り。
三体詩の竹筆を。損角と山谷の詩にあり。

竹の皮

羽箒 草履 笠 地黄煮
膏薬 粉薬 ぶりき包
伽羅 枝木

たゞんのくさをおとこのそびえに入てめがかう
そでちことをそせば良わらめてと大後にもこ。大
葉ハ行皮ハ。まくぞうし。校木ハ行のはそそろ
そじ。木履のそそそそ。調寒し

蓼

鮮 冷汁 松茸 猿喰味噌 ひしこ
洞亀 酢川茶 鱠

ともまて祭ハ同しもの仏ごし祇園会より三仏の
御菜になりかれるものにて本奉走もろそ。紀州大
此ものハ四季ともに猿わりとそ。ろ川のまひろ
の毒をけもおとろやいちり

大根

雑煮 筑紫の押領使 そば切
鰤 香のわ 吉田 山中 三時
伊吹 木皆 尾張 山城 伏見
物様のまの咲ハ接木の穂ハ大根よさして遣ろ
こ。さ紀州の中うもそ。紀ろみまやそろこと
そのつかさ。ハ三月より大内よ解の上よそく大根
なわと藤塩まにおくわり

田

麦 虫 螺 鰻 蛸
鴉 蛙 わ 昼 笠ふき 紀水

蜻

蜻蛉 蒸師 香炉 蕎畑 蛇 人手足
播广

ゑろいろのがりとそ。ぐ田舎の人いたこのわと云
とそや。捜索ぐ紀家ともいあーてろこ
ろいきれいるわ

龍

船 天井 葬礼 幡頭 雨乞
野 目貫 説法の舎座 廣池
四ツ時 水をとろ

誌のをこのこいろや娘とろやろかやや井
かくれよもむろもかりかんようの人ハてろ物そろく衣
誌ろわろ同のそろ神めろもりのやかふ
なの生ハ灌ハよ竜のにろわ。伝
の生湯ハ二の竜のロいわのとそ。乳子白
竜食乎清而遊乎清蜻食乎清遊乎濁とる。
乾卦ハ六爻ともに竜よ比ず

狸

巣汁 筆 吟 吹皮 ももき
墓原 木の実 狐のさめのみたなりまるとろまき

竹

川岸 堺 なり 葉の繁り みの蟲
弊の上に 蛍 窓 軒端 垣穂 槎 葛
田面 蓑 砌 里 伏見の里 こうく寺
弥生山 虎 樋 自在釜 若狭 格子
紺屋の門 垂木 こうぶき屋根 鉄炮
針 銚子 杖 年始の饒 賢人 書初
楊 佐方介 椁 弓 矢 尤 弥生
神代巻 取 嚢中玄 撥地則化成五百箇竹
林 とる ごろ なと そ
る 犯 多 とも なる ホ。行 とかさして 年 そ に る よ
七賢人 不負朝廷 栢 竹再生 よの ひ 八 宋 冠準之
竹杖の竜 なる 也 八仙術 以涙染竹 竹尽成 斑
とい 娥皇女英 なり。思 竹種 見 思山 成
もろ。東坡八竹の後 をうけり。王元之八竹樓記 と 作

鷹

帝 入部 行幸 百首の哥
巻 雪 茶 秤 侍 鵜 八幡
陸奥 その郡 名 百合の大臣 冨 簾
松前 苅川 交野 大原 鵠 犬
こうそれ いはく また 帝の
はする こと 化 まよ 初 ひて そ つて 一 巻の 初
てそ 位 猶 舎の里。ひむろ山下行 のなつ また
くに 餌 とひて そ く。やの門 なる もけ
やうの 此 の の巣 なるん とも に 三首
奏百首之 牧 の 供 を の く 巻 て す く 初 ち。
お 朔 なる 平 安 の こ ほ
ろ や 延 喜 の 内 裏 園 華 の 庇 の 柱 とり そ ひ の
うち そ 寄 る を 正 人 さ 七 の ひ も 今 の 世 と 風
種 の 左 の 柱 なり と そ た の ひ の 柱 よう う
てや こ う の おた も ん と こ 三 の 氏 の く 善 友 大
その方へ 毎 右 う や こ う そ う 太子 の 餝 一
の 頸 よ 懲 ら れ 八 ら そ れ ば 死 て 太子 よ な

田鶴　大臣　芦邑　和歌の浦

宇治殿と一男関白のるとき大猿よりけるへ
ふもなくしと伊勢物語に白波やよるらんさりの
ようり

鯛　恵美酒夜　奥津　月の儛

明石　年法棚野　阿古木浦　紀海

うつ浦うらのうら狗鯛ほりそ称せり。
火火出見尊の釣とのうへ赤女とう。鯛魚名
こと注せり。堺浦の鯛ハとうとう
臭折鯛ハ若狭よりおくる。
つけと云ふりさりひのうらにさうう鯛うあり

田螺　鴉　鶴　澤　沼　池　小夜通す

粋のとをりうう称よう
ようさ但和とまひわそぶ陳絶よ田螺とこの三ヶ条
とことのけーハ若狭のうう事とや田螺うう尺
小豆うさー合とく

淀　同野沢河渡　祭ハ九月廿三日

鯉　水車　川舟　馬借

車借大淀　淀田の蓑　山崎　伏見
下もず　岩田の小舟　大荒木杜　一口
八幡　竹田　岸のまき柵　つづけ　踏
まこもわやめ茗　行幸　伊勢
菱豆野　片野　大和　山付奥　嶽　高嶺　谷河付河原
滝宮里　古郷　尾上　岑　花園

吉野

漆　櫃　杉原紙　松茸　塗鉢
藏王　法師　千本ノ桜　勝手明神
金峯仙　舟生　金の仏岳嶽　カロ名生　前鬼
たごこ　國栖魚　鮎白干　釣鮭鮓　山伏
杖九太　塔ノ峯　皇居　夏箕川　静　忠信　ほ峯
大河のも　黒木の炭　十津川
山守の炭　春ケこ　もろ

峯の白雲 自香 衣を河 岩屋
乙女子 ㇷ津乙女 ものゝふの八十氏人
ワのみ 白を天 塩竈の浦 田面ノ
ヨカハ 近江 八重立雲 吹 井の月
榎河 墨染の袖 洞の森 世捨人 種
恩 物和の舞 常行堂 元三天 所
同 入江 浦 内海 乙女子
余古海 天の羽衣 伊吹の嶽 比良の
ヨサ 与謝 丹後 海 入海 浦 濱 磯 湊
ヨコ 太 いなの浦 ㇷ
漢 ㇷこと 意 ― 汝也 雨雖
廉 海士 遊浦 蛍 雁 桜貝

ヨシ 善悪 雑沓 入江 崔 眉目 銭
カナ 金 世の中 伊勢の濱荻
ヨハキ 弱 碁 将棋 運 病人心力 蒲 綿
弓 ㇷこと 繩 柳 脾胃 薬深
射 法問 京 古家 息 すまふ 八十 馬
秤目 酒 ㇷ 荷持棒
祖も老女の歎 ㇷこと 資質の相撲 ㇷこと
その所 ㇷれいと 小町 ㇷこと
つゝこと ㇷこと ㇷこと
てある秋の ㇷこと 杖 ㇷこと
ヨロコビ 悦 みをつくし 姫 ㇷぐゝミ
三番叟 のげ ㇷの中 駒
ㇷこと ㇷこと ㇷこと
悦び ㇷこと ㇷこと

ふくめさうろれうようにの加賀やうにてそうろう物
ようそうろう。一向字のうんざうの何ようもそうろ
れよとぞ

高

雛 浪年 舩 剣の魚 永 腰
酢貝 友 易 城 責 一門の義根 華
勿 おゝい 股
梓弓 ひげどひげどむ 一ら 忘 にわにわ
と 俄 ふ 初のふへふ 火 天 ふ 手 信 へ ふ 夫 婦
八 寐 ふ へ ふ 日 ふ 初 ふ へ ふ 八
ひろいゆうみふの 忘 にふそ 忘 員 と
一万 葉 にあり

名所

嶌

里 宮神 条六 四月中子日

富

例幣使八 九月十日 中山 忌谷
非楽 竜沢の池 聖護院 小角条
新長谷寺 七刀坂 兼好 る条 大根
去日の社 内外の宮 近江 冬河

薪

奈良の絵 承和尚 海士 供養
精つく 社の修行 朱買臣
曽参 番不 黒主 護ア 大承
薪と積てもけふのんとせ一時よ多ふ一早
の時ふも。採薪汲水とふ純文と折薪柚矣と
周詩よまた古墓整為田松栢摧為薪とわり。
此神木の時八漆土の俊とそかるをうけまつる。
神あり湯を煮ふ子ふ法連一釜を子ふ入湯ふ
なり。以薪早膏肓油灌其中とふ赤壁の戦ふ

續松

夜詣 強盗 夜川 引導
葬礼 二月堂 金山 冨士の人穴
傘 夜宮 愛宕千日参

此ふろの子ふにて子ふ此ふ
のふとそ。阿房宮を焼一楚人一炬とふたはま
つのふし。聖天をふくふとて麻ぐらの松明をせ
ふくふとて夜深一おふ一盗人ふふふとそびし

焼火

塩 佐野の雁 寒垢離 生壁
軍の相撲 番不 祇ふの巻

…過守　浦松芦のや…の折ひ

夜相樓

衣もわらふ灰にうもれて毛のさ…

…て毛のさとうもれて…盛の雪芦火焼て…

…酔やもり。伴のこや河こゑ…

…しの山下ろすめりそのかすみ…

と捨ものこと

薫物　タキ

小木　樵夫　藻塩　釣簀

風呂　衣裳　收納の…　…

…家　新…

手執周易一巻焚香黙坐と王元之の筆ふりなせ

こゝにあるものこゝろそ…

こんあるりこゝろの花…

…の役の例。為君薫衣裳とありて。苑廬の対避

…織香をたくとや

道場　タウ　ギヤウ

時宗寺　一向宗　破太鼓

ぼろ〳〵　宿の茶

…門は法界道場とや…

…すそのゝ行人の会仏ありく〳〵とも中に當

是処即是道場と法花の講説なり。石裳のき

堂　ダウ

つゞらくれ　…

矢数　釈迦

神樂

糟糠之妻不可堂と漢宗弘の詞。儒家堂…

…ろく先祖をまつる所。

…こゝろ。昼錦堂の記。鴈の…陽永叔の筆。群鴉

飛散下堂鐘と作もあり。弁堂乳其姑とも長揖美

人の条そ…

塔　タウ

蠟苣　芹　蕗　大根　舎利　多宝

大日　鳩　東寺　八坂　高野　蛤

桐

法勝寺　吉野　子安観音

説法會坐と宝塔涌出せりとや。塔をたて石

壬ふりこゝろ…ハ仏生…。九輪をかれて釜とせ

しわさ…世のなり…仏根ハ石をう

こそ塔とてこゝろ…れハ坂の塔ハのりの…

うりや…塔の…なりや。是結成菊花塔

蜜蜂作禮と作蝶と比…輪塔とも…

棚（タナ）

市年法（ヨモツ）南紅（ホウ）
菊紀葉 岡（アカ）伽福 魚屋 夜
蒲萄（ブダウ）袋 膳 佛 ゑひす 大黒
聖（ヒジリ）哭条 数（カズ）家（ヤ）屋 生贄（イケニエ）だい 美人
祇園会の粋 八百屋（ヤホヤ） 蜑（カイコ）
国々の城下にもその賈（アキナヒ）買（カヒ）あり。旋（サヤ）形（カタ）松枝（マツエダ）架（タナ）
作棚とゝ松の枝をそなへ
よ棚へかそへそ。ゑびす講
よりの

滝（タキ）

岩根 苔（コケ）の沈（シヅ）む 山川 松（マツ）風
布（フル）留（ドメ）の山 産（ウブ）土（スナ）神（ガミ）の滝（タキ） 流（ナガ）れ紀（キ）葉（ハ）川 そ（ソ）峯（ミネ）山 箕（ミノ）面
那智 高（タカ）羽 水（ミナ）瀬（セ） 大（オホ）堂（ドウ）る 不動
観音 鯉 鮎（アユ） 酒の曲（クセ）のこ 滝（タキ）山
荒行（アラギヤウ） 善（ヨ）光寺大仏
浄（ジヤウ）海（カイ）の布（ヌノ）引の滝（タキ）そよ吹（フ）くや七月七日（ナヌカ）の夜（ヨ）。

剛風吹落、廬山瓊鎖被人呼二瀑布一名とい廬山の
滝とゐわいふてい ふようんとの山のようなあつ
ゐ名所の滝とゝ色い大勢のおくに。五原の兒童つ
どて布引の滝の奇なる。山科のえんとう花をとり
しらせをとてとうをりぱうきやうにいさ
うたにうたひとゝもうをりてゐとうくせゐとある。
耳をわうしいうしの賢人なり

谷

柳（ヤナギ）山（ヤマ）巌（イハホ） 埋木（ウヅミ） 苔（コケ）松（マツ） 當（タウ）
梅 紅葉（モミヂ） 世捨人（ヨステビト） 山籠（ヤマゴモリ） 月（ツキ）の入（イル）
うとう紀（キ）行（ギヤウ） 老（オイ）の波（ナミ） 木立（コダチ）
小倉山 鹿（シカ）ね 虫（ムシ） 蜀水（シヨクスヰ） 砧（キヌタ）つく
秋（アキ）
花（ハナ） 洞（ホラ）
樵谷（セウコク）園輝（ソノカヾヤ）介（スケ）と云（イフ）の平家の軍勢（イクサ）ハ（ワ）くぐ谷（タニ）
にわらうり。伝（ツタ）教（ヘ）よにてとゝ（ヨ）ゐたゐ（ヲ）ゐ
こゝでわりそいとゐゝこゝ（ヲ）ゐとゐ源氏の兵（ツハモノ）
りてゐとゝ八五八谷（ヤツヤタニ）の間（アヒダ）とゝひわうりとゐ蛇の大谷（タニカヒ）
るうとを維代（コレシロ）巻（マキ）のうり。山伏の身（ミ）を谷行（タニカヒ）まうう
こそ不浄（フジヤウ）なれ。谷（タニ）ゐとみ（ミ）ゐまとこゐ（ヲ）ゐとう
ようとう

冰

松 茅屋 ある月 入日 庵待

湯尾 日の岩 箱根 畔 入舎

子安の蛇巻 老坂の冰 代冰

小若浦の氷紙 うつくし 軍配 冰 冰

敵 六月 暑 なげ

嶽

富士 伊勢山 仔吹 吉野

如意越 天狗

弥勒の峯 絶 上 ぐけの 御 の嶽 やま 嶽 ん

門裏

雛 ちま 死 上 扇 天狗

平将門 実 内裏 百官 受領 奥

町人 出 番 奈良天王寺 伶

大小

刀脇 ざ

一本 内 ざ 西 向 坂 経 柑子

やこ。神異経 西北海外 有 長二十里 ら

辞 桓公 獵 て 一 鵠 長三寸

三分 人 あら。大小 称 紙 も あり。

ま小 名 あり

太刀

暦 狂 馬代 法師武者 山伏 祭

魚 狂 隠 湯舟

剣 太刀 ふら そふ と 差 ん あ ら

松 生 小 枝 ふ 根 太刀 と

太鼓

左 古寺 道場 入院

扇 雷 六斎念佛 踊

二絃 題目 絶 新発意 竜 内

悪気　祢るゝ　勧進帳、弥示　軍

脩　修羅道　障子ある　城　時当

術の場　吐　冨士ヶ殿九　糸竹なとゝへ

傾城　懺法

千本壬生嵯峨三ケ所の念仏も狂言の所作あり
まぞ泪ぞく此村くハ洪水の時人を集めんとそう
問ふ天王寺るも住吉るも太鼓の上手ある。獅子
舞もおにかけてたくぞうし此城のうちり番る
太鼓がお湯なり

大日

冨士山　行人　真言宗　高野山

清水坂　弘法大師　湯殿山　塔

伊勢の外宮ハ金剛界の大日と沙石集に見え
又。八卦の坤ハ大日となり。ほ七日の御修法は両
界の曼荼羅あれども。大海の底よ大日の印
文ありなど大日本國と名付るとかや

大黒

寺　柱

乾の隅　甲子　丁銀　叡山

布袋　鼠　銭

恵美酒　法敬

人ハ寄りて樂を奏せり。田舎よりのかりハ順乱ハ
先内裏ともおもこそまさ

太史

松　思ひ豹　鉢　傘

歌舞妓　傾城　伊勢

天神の御使よおもう太史おわ。おは何のちわるの
太史とのぞんざうやさんとこわ。浄瑠璃にも太
夫る。諸社の神官を大ぞ大夫といひこれわ

大名

竹　狂言　藝者　関舟

吉野　巻狩

内外の衣数の御用をうけ無り兵服ぞなくて
うるひぞ医者ハいくらもかへらるくし衣八箇
國の大名小名おりのくのあるく入とハ御世流れ
雲の伺ひふても大名の御とわり御くとあ下
よのひ一の守山の甲屋し麻うり返るうわ時大名
のわさぞうし

太子

中将棊　文選　仙人よ流うあり

天王寺　片岡山　枇　御の作

守屋　仏法一文を穢舎に入

一向宗の仏教よ太子の絵像をうけなう。太秦よ

太子堂の前に秦河勝胸に仏像を安置し奉りて
の高座に太子を招き奉りて説法あり天子のおぼし
て科をなだめられ給ふ事高祖に似奉りて高祖父子
太子の御不用にして科をまぬかれ給ふ小学校
にまぎらはしごすいでんを山中に捨しめ給ふ太子
いたく御なやましませり

大后

後の脚 厩戸 伊勢 賀茂の神 房前の浦 鐘楢

平治の時阿波大夫と云し者阿波より御舟をさし
わたし野馬臺の詩をとりいだし吉備公なり。菱
上の君の女とや。道後法師を大臣殿よりさし
もしなり

大立

そくみやう 清水坂 桶結 連弁 陣場 大坂
像ホトケ 桶ヲケ 連弁ダイ

及び破扶の為に湊よりてつくりかざり。心
月十日小野の釿ぞめとそその式毎年に
菟道大和なくわものとぞ。ゆゆしくよめるかな
もぢひざくのうへすこしのこりにけり天
王の公卿

年戊天の十二獣子の肉まもまもりまいらせ。
師の御ともして十二年よりの一度十一月子の日所作。
祇園の末社より大宮まで
まいり

達磨

片岡山 西京の刀 掛絵

いろやとの小川のうへにたてるわが大君のみな
わすれめやとよめるぞ。十月五日は達磨忌とる。
阿弥陀経下方世界の中より達磨仏とる。淵明の
詩より有達磨骨髄と錦繍段序と

大師

山門 三井寺 高野 いろは

元三の勅書 仏の作

東寺 額の業

法花と称せられ智者大師とや。観経の疏を
と称られ善導大師。性灵集は弘法大師の
著述とあり。始教大師は根本中堂とそ慈眼
大師は東叡山とそ寛永寺を作りたりぐろ
そ匂と称せられ叡山なり。うのなき風とや
めでたき賛列なり。片岡山のひもじき人とや
磨のうなり

寶

市　茄　宝分の船　古寺　仁臣

土用干　賀茂の祢子　唐船

山崎の寺　隠里　龐居士　極楽の池

鬼ヶ島　狂言

風月千金宝とあり。こんよまでをば宝となく、摘は仏よみぐくこうにしくらども、すれば宝よらつくへしますゝみ人のたのしとみ宿そうに是こゝろのたのしとぞ。剱璽内侍所なり。左傳ニ云、宋人或得玉献之子罕、子罕不受曰、我以不貪為宝とある。大学ニ楚国無以為宝、惟善以為宝とあり。仁義者帝王之宝也ともいふ。太平ノ宝、君臣、薬ともいふなり。仏法僧ハ三の宝也

玉

露　堀江　簾　味噌　馬蛍

臺の月　君が代　汐の満干　貝

大施太子　志渡のうら　眼　牛　舟竜

刃　汗　火　藍　湯　水　衣　拳　網

冠　椿　柳　藻　釣針　盃月　卞和

輿　こんにゃく　鶏　鉄炮　蛾通

玉の段ハこゝろへぬ物とぞ。埤雅ニ云、竜珠在頷、蛟珠在皮、蛇珠在口、鼈珠在足、魚珠在目、蚌珠在腹とぞ。息童於珠玉と文選にあるを地をはらひてとら出しぬる玉よ天下太平の字ありしと開元遺事にみえたり。光をやさしくそはらんりうしのおもふむかしをてらす月かけ。雍伯ハ玉をうへて妻を求むり。千金の玉も玉人よみがくすと孟子の語也

玉祭

袖の露涓　昔を思ふ　灯

古寺の秋　うき世の表　月の恋

ふるのべ　身より入　志渡の浦　大晦日

みそはぎ　蓮の飯　瓜茄子

中くよなるからなれば古今よ沖つ白波のゆふ暮を配不穏その玉となり。玉祭の夜よなりにたりとよみし玉もある。玉まつりすれど癖病平愈をといのひなりしを、玉まつることなりゑををを入てこのやしのおもちゑてあわれにおもてしぐまつりのうすとぞ

玉の輿

茎　氏なくさ女　玉のような妻　婦入　新まり

幻幸(ゲンカウ)幻啓(ゲンケイ)も共(トモ)なるを
はじめそれなるべや。雪月(セツゲツ)花(クワ)
とりどりかせり

玉の緒(タマノヲ)

孔雀(クジャク)ぐりく　筆(ふで)よ
みのくかことばもしらんちやく　筆よ
こひさうやもわすれぐさ　犬(いぬ)
いもばかのうそ。玉の緒をわたりて
ひすべればそのはしもわらんとぞ。
ふうもわらべであえうく人(ひと)のうしろ
玉章(タマヅサ)　鴈(かり)　犬(いぬ)　鳥(とり)　人(ひと)　寝(ね)の内(うち)
ほ物(もの)　ろ飛(とび)
燈(ともし)火(び)　鼾(いびき)

玉章のうへ。ぐれぐもうたがひをくれ
ばくやからう。ゆかりの玉つさ。こゝろのみと
いふ小町(こまち)ぐるま。ゼヌのそらごと。うらのそよ
く秋(あき)うらみ雁(かり)のうろこ。ふみしたゝめて
今(いま)にも

魂(たましひ)

目(め)ろ〳〵　生性(しやうじやう)　眼(まなこ)ざし
出(で)る　けぐうの
臨邛(りんかう)道士(だうし)鴻都(こうと)客能(かくのう)以精神(せいしん)致魂魄(ちこんぱく)
をこ妃(ひ)のうそ。魂帰(こんき)泉(せん)と絶句(ぜつく)玉(たま)
いうけぬ。誰(たれ)ともろ〳〵ねぐもむすびそとも
ろ〳〵のつまとんぐ。のうそ。
ろ面(めん)〳〵おなり

達者(たつしや)

物書(ものかき)　弓馬(きうば)の名(な)　義経(よしつね)
武略(ぶりやく)　年(とし)寄(より)　ろみ女(をんな)
旅(たび)のどう　山坂(やまさか)　老脚(ろうきやく)　和(わ)ろ　物語(ものがたり)
おろこ
みなかの見(み)て久(ひさ)〳〵く彼(かの)もなく先(さき)達(だち)去(さ)なろ
こそめでたけれ。病(やまひ)のどりぱわにつそ(かにつ)そ
たそれなわりくろれ〳〵ずや。屋(や)とひろ人(ひと)の
ろ〳〵ろきうひ〳〵きいろ〳〵ろ
ろ雄(かつを)かろもの名(な)　駒(こま)　ろろかの後(のち)
もの　馬(うま)の飯(はん)　落(おち)　硯(すゞり)

刀 單越（ぜんえつ）
月の下弁（したべん） 柳（やなぎ）を折（おり） 並木路（なみきみち）
やぶる袖（そで） お仮屋（かりや） 浣川（ぬめがわ） 駅路（えきろ）
いそしむ 一夜妻（ひとよづま） ふるびる 表（おもて）の粉（こ）
馴小袖（なれこそで） 着（き）なれる 衣裳（いしょう） 着物（きもの）
着（き）なれて故（ふる）びのつく 着物（きもの）
こころにくからず 良夫（よきおっと）
足袋（たび） 冥途（めいど）へ通（かよ）う しゃく 艶（えん）よやさしく 旅（たび）の
まくら 着（き）なれる着物（きもの）の内（うち）も表（おもて）も
ひとしおなつかしき 旅（たび）の
たび人（びと）の肘（ひじ）かけ 下（した）の
ふところやすき 旅（たび）の
かりそめ 人（ひと）もあまた
のるべに万象（ばんしょう）にあ
のるべに 万象（ばんしょう）にあ

俵（タワラ）

大黒（だいこく） 俵橋（たわらばし） 菓（かし） 堤築（つつみづく） 宇治（うじ）
庶北（しょほく） 小炭俵（こずみだわら） 灰（はい） 炭（すみ） 塩（しお）
炭俵（すみだわら） 鰯（いわし） 米一俵料（こめいっぴょうりょう） 沽（うる）

門（かど）にこめ ようそ（よう）れ（そ）たるこころ
ぐそくろくとにく。伊勢（いせ）
めそをせらるるそ。小嵐（こあらし）
すめ。旅人（たびびと）の為（ため）をおもひ
とのそ記（しる）したとそ

俵（タワラ）

胡子（こびょうし） 表（おもて）
菩提（ぼだい） 油（あぶら） 思（おも）
けげ 初午（はつうま）まつり 物笑（ものわら）に 質（しち）
伊勢詣（いせもうで）と出（で）ていく 俵（たわら）
を綯（な）ひ 弁（べん）の誓言（せいごん）
として 方（かた）
いろいろ 俵（たわら）
うそ 俵（たわら）
う称（とな）へ 俵（たわら）
人（ひと）
ダイ

題

接木（つぎき） 進（すす）む
論（ロンギ）
橋（はし） 城郭（じょうかく）

起岐が孟子を序とせして題辞とせし
うりとぞ行幸御賀月見花見の遊興を詩
ふりてわそろへいはゆる
まふけお業入まかの筆
うらのおもひわりてこそ

短冊（ザク）

花の枝 双屏風 風鈴
昆布きざむし 忠度 左衛門
伊勢の海二見の太夫の
とうや。扇屋の振袖。短尺
木の下陰の遊女の幕
の様な分て遠国にて風流
なり

屏風（ビヤウブ）

石数波 芝居 様々
挑灯 古家こわし 床 数寄屋
宿々 白 具足
半人 太刀 剣 三本
うち付うち。屏風
器の画合 屏の図

提灯（チヤウチン）

祝言 祓 徒 御神酒 振舞 働 酔 乱 喧嘩 出入 礼者 斎 油
渋 雑遊 祝儀 弁当 花の下

提灯（タヅ）

祝言の祓徒の御神酒振舞働酔乱喧嘩出入礼者斎油
かざりよろこのある中
ともひけけり。提灯行器
酒樽 酔幼入堂有酒盃稽古

巾着（キンチヤク）

女 ねとや。手
うら 浮 ハリ
婦よ。 履
まづ

葬礼（サウレイ）

葬礼 寄せ 寒天 近後

湯立（ユダテ）

湯立 文字

掃除（サウヂ）

掃除 庵 下女

沐浴（モクヨク）

沐浴

酒樽（サカダル）

酒樽 敵討 児

釜（カマ）

釜 湯 頬

提灯（タヅ）

提灯 田うへ 餅つき
れの

師ハ父そうりょうの如くのさうじてわさび

寺院（タイムヤ）

花ある茶湯（チャタウ）　詩所　紀氏をめぐ

な仏のこの経多羅尼ともろ人と言令伝給

ひ、学ん。所でよう詩つくると文とおてもの両

所ぞ。猿の首途（カドデ）　西施のごうぞうもこそな

ふ。ふるぷりのん神よりめぐみたにんともつく神うぷ（タメ）彩よ

おの姉給者ありてくとともうこうり

者をおりそへくさ　花すこさ　すこさの風　小弁

花（タメ）

かいなくいくいくのべんおひごとおる花よたろう

人こうぐいくいのべんおひごとおる花よたろう

さにそうぷおこるいみよ

桜とせう。曲脈（たぶ）為秋（ト）とのふもまろう花谷

思べし。扇（ヲモ）とりまう向なごうのの花そ

ふ井（ヲ）石のうとくうやや。断（ジ）神の契（キリ）とうて

ふ松のうれうなるへし

尚庵（タウザ）

詩哥　口論　褒美（ホウビ）

賣買の狂い尚庵よう　川あおあ　仲人（ナカウト）　作向

題目（タイモク）

松の後の踊（ヲドリ）　卒都婆（ソトバ）　鶯（ウグヒス）

ふ親しく先こめそうこ死影見こと弓人幡よ

うこうぷまのうこうこうこの音又いふ記母山み

ことのうひごび苔のくいとありひやうくうし。

十月十二日ふまくようそうとりおとてがうをこ

ふみで。母の帋（ホ）よ妙法蓮花経ことと平康（ヘウカウ）朱

の巻よう

経緯（タテヨコ）

十文字　織物（オリモノ）　ゆき柾（マサ）　霞（カスミ）

業法　行廻（ヤリ）　逆茂木（サカモギ）　町作

たてなるようこうこもせあこおもうねん。

ふり川のようでうれバとおそうこへなる

る事う縦（タテ）有平上去入之四声（ヨコ）横有宮商角

徴羽半徴（ハンチョウ）半商之七音と韻鏡よいう。平民

の自録よ横（ヨコ）と竪（タテ）のふこいるぷおの外の物こ

ふてそうこうこすぐうなくてうぷおりぷ

代替（ダイカハリ）

官位（クヰン井）　政務　陣（ヂン）　接木　文法　寺岡

三皇五帝夏殷周よりつゞきて二十一史と歴然（レキゼン）たる天神地神と始（ハジ）まり神武（ジンム）天皇より百王（ヒヤクワウ）あまりつゞきて連綿（レンメン）と国長久（ナガク）なるごとくに、ついぞ変（ヘン）ずることもなく程（ホド）へて亡（ホロ）びんとするねざしの門（モン）の子（コ）あり。ふかくもあらず浅（アサ）くもあらずして発（ハツ）明（メイ）なるひとりあるごとくなりそなわりしかども、ついに天下太平（タイヘイ）の文字（モジ）もしらず、明皇（メイクワウ）の御（ギヨ）心（シン）をもゆるす耕（タガヤ）す者（モノ）は畔（アゼ）とゆづるの御代（ミヨ）となりぬ。太平宇宙（ウチウ）于戈（クワ）収（オサ）まりぬ。

泰平（タイヘイ）

銭（ゼニ）　芸（ゲイ）　楽（ガク）　軍記　年号

天下泰平国土安穏（アンヲン）とうたう。太平の年号を西晋（セイシン）恵帝（ケイテイ）位（クラヰ）よりつきそめしより二年（ニネン）めあり。太平天子朝元日（チヤウグワンジツ）とよ。玄宗（ゲンソウ）をたゝえやがて天下太平の文字もしらず。明皇の御心（ミこゝろ）も耕者（タガヤスモノ）は畔（アゼ）とゆづるの御代となりぬ。太平宇宙于戈収（オサ）まりぬ。

伊達（ダテ）

踊子（オドリコ）　傾城（ケイセイ）　若衆（ワカシユ）　小唄（コウタ）　浮屠（フト）　染物　陸奥（ムツ）　産婦（サンプ）　祇園（ギヲン）祭（マツリ）　祇園の供（トモ）

団子（ダンゴ）

うたのや　彼岸（ヒガン）　墓参（ハカマヰリ）　亡魂（マウコン）　四月十六日　八王子（ハチワウジ）　百姓　疫病（エキビヤウ）　清水坂（キヨミヅザカ）　乞食　霊屋（タマヤ）　棚（タナ）　施餓鬼（セガキ）　貧乏（ビンボウ）

四月十六日八王子の百姓の疫病清水坂の乞食霊屋棚施餓鬼

子（コ）

酒　蛇（ヘビ）　南蛮（ナンバン）菓子　膏薬（カウヤク）　貝焼（カヒヤキ）　蛸（タコ）　蜆（シジミ）　蚊（カ）　混池（コンチ）　鶏子（ニハトリ）

混池鶏子のごとく世のそだちの良（よ）とはいう。多くは成（なり）そこなうもの多し。今の人の子をそだてるの仕方にてはいかゞあらん。

ろくこ巻る百首之学道漫如鳥之騒卵轡有間断永功不成ゝ切疫の療治ほどこすことなし

盥

生子 織多夕 湯殿 飲料 頭そ面 星祭

女のよわらのあるさすをけなえてくるとそうくる私びくりおおくへもわらじとおりぞのうちにくるきいろこびそうし。

旦をそうくひろ。苑薗のうえ子らの癪のうえいこくくとし。礼記沃盥を

わるくもたらひの公家

壇

織物 躑躅 塔 織異 護ノ戸 調伏

清水 死生門 長門浦 作文

小鍛治ノ伝叙を手ゝふゝ院内裏を咒咀志ものゝ一時傷をそうくひくんん

ゝ五色の幣帛をそそ玄蕃ゝ五幣を捧せ作ことのるわり

ゝ。元服ゝも上壇のうえ

七夕

聖灵祭 楊弓妃の契 市女笠

呉服 歌 鞠 風 立花

宮の縁 承行のゝ忠 九重九秋

うくゝのみ七夕の比ひそ

和泉式部ゝ関もの伝小町

こそ張文潜ゝ七夕歌ゝ。七月七日風そ吹て赤

院ゝ七夕祭のそこまり八日ゝ

祭ゝうくゝ拾遺の詞ちん。

をセタハゝゝやうひゝうくん

ゝつりゝ玉階夜色涼如水牽牛織女

星とハ三体詩ゝ

立関

薫物 糖 辻占 夜盗 銭別のう

庚申 茶の番 門渡者 審決

ゝ。系ゝて縁人の死のせ

りうの例の一夜ハまうと

ゝ小町ゝ文をもゝいはゝ

男ゝうそてゝ小野やこもりんとしよ

例

刀 具足 若狭代 信吉の松 流れ

氷 ちうう 分銅 弾 鉄砲

雪のたうゝまゝなりめゝさゝ

壷にゝそうゝうと和

望ふもなきよ〳〵のたなごころやう月
もとのごとく松のなりせんの代のごとを
ひろまり

たつ

のきま 流まの女 誓言 発起
花針柱 家寺塔堂 茶服
門松 門戸 法律 傍示行 立札 棧
橋杭 そそそ 石垣 詰人 帆ちら
旗 法度 年矢 多 煙 蠟燭
埃 記月 後見 證拠
線香 ところの坐禅の時。紙燭の迷にさ
つくぬるところの軍のもち お湯 ところ市人
のごとなる八家方 ところぞ。乳雀八尾
ところ。猫八爪 ところ。始皇八妾房宮 ところ。
製式い銅雀臺 ところるも

倒

多祢 杉本 古家 酒の猪口 員
屏風 商人 川流 古家長 雪

方文記よき中にこのわる
こうも一ぴきしぬしくなし
れうもろ八腦の対しえ
ところ神うんとうけき羅漢のこれつこう
いろうこうろ子八多たそし
ところふ方あり。鹿谷の酒

扣

多鶏 針口 戸 順 納豆 七種
蒲鉾 垂こ 猿こさ 汁
月下の門 なすあ
徒子
豕八こけ成色ろこそたくこ
とたくさけまでわけでうを
おわるのこのこせと
おもまろこれと日高文五騎正濃軍将招門
驚周公と盧仝と茶歌なりぷうんまのろ
八とたく。抱沽い針とあ
たくなり

持

ふ 戒 弓百姓 古家の修記
味ひ 役

之未と称説の詞なりおがえつゝ於持満ちるぞ。あるき紙小ハのわたりなり。うす紙絹の針たりなり

湯 ゆ 子安 あなとる 子の垣 痛

雲 くも 綾倉 末の杖 弟の竹 茶救竹

塵塚のちりハ多くてもそこらずとへむも記事も風まちまちて皆よたまろぞ。味うれりのハなまたまちぞ上ちもたまちもの〳〵ぞとな末勢なりぬ〳〵ぞもなれハ流寧入なり。称うけてそへわ〳〵ふれるこゝろなりぬ〳〵よなるろ〳〵よなん

中ぞら 待文の之一 右方

軟む やわらか 末のト寺 結人

役 鳥八朝

軍勝 称仏主 **主** 執 **史** 巻 **家**

医師 倪云 そよつゝ

わるさ君ハまいく久一ぞ。ぞるとさ角すると。ねれのこそ。も回ハこのこりひき。痛いものこりひき。名人の細工ハ称もたのひぞ。とくびやうもなハいのこと

厄となのり

くびく 花雲 光明 ふさ

神さ 猫

次ての廻事のはやくこゝろりぬり

たよこゝろりまわぞ。其清陽者薄靡而為天と

ハひぬのこりめぞ。こゝ死ぬしふりこのちりひちりわ

なこるて天雲こゝろびとりやうのをよ雲

たるりハいこゝろ死性生人とぞ。ぬりすこやまず

こゝろり称回山ぬ事せん日いれこのんこゝろよん

百ぬのおり

る タカキ 位 人のせい 実和 名称 調

山 穀 壁 わらぐ 死る

百人竿頭島衣々身いやしく在生不驕高而不

冤と孝経ぞ不盈豆高不臨深との曲礼の文ぞ紙

風ぞの洋いるし 須弥ハるけまこゝろ

梵天より盤石となせハ三年ぬよ下界ハ面の山ぬれこゝろぞ。山不在高有僊則名と劉禹錫もぬり。山高故不貴とぞ。水の鳥いるこゝろ

たくむ　むりん　一揆　詞

発句　文

巧笑倩兮と子夏の問ふ。離婁之明ハ公輸子之巧と孟子のいへり。我揚よハ謀をたくむ。詩云ハ句かくとたくむ。そらにたくみ出す母の名とも

貨狄のるうん才のくらの方の形をなおまかせて

つくり出すこと常木よりきわ。文琳巧詠物然

其財近俗如賈人之着鮮衣と古今序に云也

高根　う　笛　鼓　そくさん　深雪

きらく　雲路の鷹

高根より出て風なの名に知られてぶおりの妹

におねよハ愛宕の山よハ比叡山。比叡の

山よハ薬師と安置せり。よ向よりなの光を

ぶふ…

臺所　和哥の家　猫　韋駄天　舟

椅着馬　门

臺所ハ火用心をつくしむつまし。餅つきハよろこびをしく

見ゆり。貧なれバ蜘の巣おほじ。せさぞろうハ都なり。

万歳楽まふなし。…の附物と…

きものなり

便　タヨリ　風の音信　中宿　親類　文

ひさり子　木鉤　母のきひ　杖

便りハおそ…つけるさんとふ由海の實ハおえ

ぬと…

アまりと…

よひとらく…

そわのされ

樂　タノシミ　浄土　陋巷　花のある

上戸　昼寝

樂莫樂兮新相知。わあろりとそのうるし

ともよろびせうしたのしくわらいこんとまれ

しよそもてまれハなるりなん。無一期憂而

有終身之樂と

名所　タネ　山城杜宮　河もる　ゆかてまれ

紀　時鳥　よぶこ鳥　蜩の声　團子

君を祈る　朱の玉垣　みそぎさ

梅小路 同

山吹の花 岩橋 八十氏人
夜まの浦 宇治川
瑞雄 朝日山 平等院 山吹の瀬
扇の芝 釣殿

玉乡 同

山吹 丹生 大和路
山吹 岩淵

玉川 同岸里

衣うつ 砧
山吹 雪立わらう
梔子 なま下草

同原里 北

竹田

井川 早苗 田蛙
水鶏 伏見 九条 石塚
小枝の橋 秋の山 恋塚寺 城南寺
車借 牛黄 愛岩 清滝 月瀬
同山 愛岩 文覚 神護寺
砧 砧石

高雄

比叡院 檜皮ぶき 土器なげ 鹿背山
紅葉 松の下風
紅葉 九月九日 笠取山 天皇
松の下風 後京坊 蒸竹

醍醐 同

味 竹谷 路

楊梅 南山の山伏

牛の尾山 一云ふる
鳥巣布 松茸

高天 大和山峯 河原 杜宮寺

天津乙女 葛城 立田の奥 山家 楓
白雲 紅葉ぐ 荒和祓 山もみぢ 楓の下露 雪
禁裏 裾野 河内河原

龍田 同山 奥 禁裏

岸 道祖 里 尾上 笠八四月四日
小椋の翁 神南備 岩瀬の杜
三室 瀧 瀬 淀人 高天 ふるき
紙羽 三垣山 吉野 雪 八重桜

紅葉の錦 神代 鹿 唐錦 神代 鴈
秋の淋 神奈月 ミハキ 初秋 久附 山姫
高安の里 ヨロヅ 高安 ヨロヅ 神奈月 ミハキ 初秋 久附 山姫
折敷 唐衣 カラコロモ 朝露 まつ蟲
うす氷 やまの雁
高圓 タカマト 同山 峯 野宮 紅葉 梓弓
ますらを 神代 鹿 弓張月 ミカヅキ 龍 照射 トモシ 尾花
雄子啼 キヽスナリ 石上布留の社 そそのこ
玉田野 女郎花 タムケ 滝津瀬
高向山 タカムケ 同 峯 神代 紅葉の錦 高姫
さらく 尾花 かるかや
高の白ゆふ 同 紅葉の錦
龍市 タツノ 宇治 ウヂ 大和 ヤマト 三輪の杉
久迹の郷 クニ 新人 花

高安 タカヤス 同里 立田山 二度かる 衣
貴船の相場 キフネ ソウバ われもこう
けごの衣 いとゞ
田蓑鴻 タミノ 摂津 田蓑島 雁やどり 雪の白波
高砂 同越前 ヨリ 菊 露 仙民
同 越前 ヨリ 同名アリ 芦 二鴻 暁
玉江 蛍 五月雨 まこも 刈 糸 鴈
まそかゞみ
高師山 タカシ 遠江 鹿 浦の松原 濱名の橋
蜑の声 アマ 東路 雪の横雲
麓の波 フモト 奥津風 高砂 尾上 松風
駿河 スルガ 天し女 トヨ 笘屋形 猿士
田篭浦 タゴ 海士のともし 五月雨 降
雪 ユキ 色そふ河 水 村 光 別 ワカレ

寝わ言ふる山 清見ヶ関

多々古浦 越中ニアリ

竹下（タケノ）　相模 足柄山 一夜宿り 箱根

若の名 小そでこひしき 合戦（カッセン）

武蔵 狗さをつまもと 秋芳

播广 若ぞでこひしき 売落 高嶺

立野

高鴻　近江 山河浦 桑本（クワモト） 陸奥（カナノ）

呼 葦（ナミノリ） 松山 鹿も啼

もゝ丸の浦（カトリ）

三尾の中山 照月（テル）

田上（タナカミ）　同山 松山 河芦の苫や 篝火（カリ） 多

鹿の名 網代（アジロ）の氷魚（ヒヲ） 巳の木 八嶋

三尾山 投首山 さゝ波の山 黒津の里 さゝ波

真井（マルヰ）　美濃 大垣 舟上 桜の名 ひゞく系

ふくの笑 多（タ）葉（バカ）の墓 赤坂（アカサカ） 年をとる

高砂（タカサゴ）　播磨 山峯 尾上 麓 里浦 濱 岸

松 黄の友 小男鹿（サヲシカ） 外山の霞 橋

霧 緑の名 露 催る（サイバラ）樂 謡 紙 明石

何の次广 櫛ヶ原（クシガ） 漬香浮（ツケガ） 飯蛸（イヒダコ） 唐土（モロコシ）

玉津嶋　紀伊 入江 岸 宮神 小松原

和の浦 稲の系 岸 汀浪

言の外道 五（イツ）つ（テ）松 吹上 蜑 葉（ナリヒラ）平の舞

高野山（タカノ、カウヤ）　同 三世の佛 暁を待 雲（スミノメ）染の袖

霜法のこり 火 三鈷の松 その番

肥前 鳥栖 松浦 あの後

玉嶋川　七（ナヽ）瀬の淀（ヨド） 乙女の袖 柳陰（ヤナギカゲ）

風流嶋（フリュウ）　同 あさ井 夢の白波

南广（タナミ）　大和 寺 杨 ゆれ衣

中将姫 二上山（フタガミ） 蓮池 勇多羅（ユンダラ）

雀山（ヒバリ） 経供養 法（ヤリ）

丹波
山陰道　大納言の小豆　煞蘿　佐伯砥
栢原墨　猿樂　山椒の皮　葉煮蛋
栗　丸太　苧　筆柿　大江山　富の緒山
弥南海山　常盤山　生野　雲田村
亀山　子安の沈香　医師　鮎綿
梶鳴　浦嶋
丹後
同　細美　粽好　老海鼠　撰糸
鄭　鰯　煮海鼠　伊祢の浦
与謝の海　九瀬戸の文殊　天の橋立
和布　成相　おの記号　九月の祭供
但馬
同　出石絹　諸礒砥　抑篭履　綿
芋　朝倉山椒　車牛　三足の蒲
結浦　立師の里　入佐の山　亀の首濱　朝来山

礼

蓮華
佛壇　胸肺の臈の像　けし　経
業池　茶垂　観音　功徳池
大如車輪と阿弥陀経に説く。往昔吳山称南無佛竜知佛子敬之遂持蓮華献生免罪云々法花佐にあり。起行上人の持蓮花八昼夜下ると云々。扨又阿弥陀十二礼曰、両目浄若青蓮華云々。この池は我ら心の池なり。花は心の色なり。実は心の池の奈良と云々。
連歌
愛想　祈祷　穀断
追善　陣処　狂言　月の夜
小野　清水　初宮　弾　府宗寺　雲月
うひ〳〵向大のうつけ五とあーをこりうるを描きたてまりひて小川へころひ入ーハ何のわざとふとやらーん。砂石集云鎌倉君の極楽もよあり。仏菩薩の連ありーる付よそ又毘沙門堂の連ありーる。宇教うみそ連ありる。西福寺仏の連ありる。南教興福寺うそ常に連有おとすりとる。酒のこと連ありーてとやーげる

多人の死えとのつゞり

連判（レンバン）

謀反（ホン）　借銀　起請　法度の觸
訴訟（ソセウ）　遺言（ユイゴン）　許訟
共法の才子
詰（ツメ）る普請（フセイ）ハ至（イタ）たづしくずハなるもぐら　籠城
の附一味同心の者連判をなすそよ。家の町ハ
勿論（ガイ）各（カク）〻布（シク）〻まで宗旨（シウシ）わく〻ありて
く百姓ハりんとうらひく後ず巴（ともえ）どうんと判紙
ばぐら〻

雲天眞（レテグ）

市人　合薬　見世棚（ミセダナ）　争（アラソ）
物（モノ）を統（スベ）の札場（フダバ）ハ銭（ゼニ）勘（カン）をすてきそく紙
とそ。鉄炮（テツポウ）の薬（クスリ）ハ分量（ブンリヤウ）あり
とそ。金銀（キンギン）をも巴（ともえ）て勢（ハキ）と前絵（ゼンエ）をとり。各（カク）
歟（カ）とらぐ〻よりけてうとゝそ

灵宝（レイホウ）

弥社　入院（ニフヰン）　寺　出（シユツ）るひ
法皇　檀山（テンザン）は幸（カウ）の門信西（シンセイ）が供（トモ）して久（ヒサ）くの和（ワ）
仏開帳　開山忌（カイサンキ）
とりしバ傳戈（ハカサイ）ハあらくわれり。竹生嶋（チクブシマ）ハ
いの灵宝ハ統のわひももくわれり。老僧（ラウソウ）添居（ソヘヰ）て八

若僧（ワカソウ）よりつまり。鞍馬寺（クラマデラ）ハ兵器（ヘイキ）あり。東福
寺（トウフクジ）ハ書跡（ボクセキ）あり

療治（レウチ）

牛馬　湯山　陣中　阿蘭多（オランダ）人
鷹　産後（サンゴ）　南蛮（ナンバン）人
平（ヘイ）宇盛（ケモリ）ハ吳（クレ）の人の療治（レウチ）をうけられず巴（ともえ）黙（モダ）
妻（メ）ハ業（ワザ）の胡苦（ニガキ）をなめて北辰（ホクシン）を祈（イノ）り。季（リイ）令
巴（ともえ）ハ名医（メイイ）といくそうらひて官（クワン）をつぐ。蛭（ヒル）をうりてや
伯（ハク）ハ祖母（ソボ）をいくそうらひて官（クワン）をつぐ。蛭（ヒル）をうりてや
巴（ともえ）ハ名医（メイイ）といくそうらひて官（クワン）をつぐ。蛭（ヒル）をうりてや
なり巴（ともえ）ハ冊漢（サツカン）先（マヅ）。ぬり
扁鵲（ヘンジヤク）なり

料理（レウリ）

狗（イヌ）　狩（カリ）　教育（キヤウイク）　称（ショウ）
旅泊（リヨハク）
平生（ヘイセイ）胃気難（ガチナン）し料理（レウリ）し山谷（サンコク）の詩（シ）へぐさ。ふみと
ーわされのこそ就（ツイ）とうやうふうそいそーくれ。
死（シ）そうりうの山伝（ヤマツタ）ふ暮（クレ）まい巴（ともえ）道（ミチ）をのづく
亟（スミヤカ）をそうるくわざし逗留（トウリウ）すう舟（フネ）ふ
いろ〻く魚（ウヲ）を求（モト）めてつれをなくさひとや

連尺（レンジヤク）

旅（タビ）　商人（アキンド）　山伏（ヤマブシ）　髪（カミ）
小もの　ばぐら

名刀ぢうのぼる魚荷は背よおひてくる。
榮ゆめのふもいてくる。強力が爰我
おひてくる。官し。親と教ふ〜おひつとき
やをしゆるこのく告ふこと

礼

神前　佛前　鞠場　主の前
番所　親兄師匠　医師
樂　葬送　玄関　菜の湯
的の扱
礼与其奢也寧儉と論語し。鳩し礼ふとこと。
ざされぬい礼をうつし。使者ハ自分の礼ぢ入
紀ぢ一回礼をし。家を買求てハ町の作法
ありてまづ初ての礼ぢあいさつ礼ぢあいさつ
朔日十五日廿八日ハ礼日
行幸　吊ひ　位言　天王寺
賀の祝

伶人

四月十七日ハ春の彼丁ぢそこ
大極殿造おさめ礼宴会に詩作伶人樂を奏

獵師

山　海ぢ
祝　裝束

宇也上人ハ獵師をすゝめ
ふれいぢ富士ぢすそ。鵜飼の
の獵師とや。湖ぢ
田ハ獵師のおほさ

罪

法を弘ひ　子にを　流人赦免
隔河の祭　死罪なくし
崇廟祭　若わ女人
妙法　愁姐

外ぢ

とゝぢ延久四年ぐ。元和の法入内ぢ道すがら
管絃ぢ色ぐ。宇治川の
とうぎやうぐ

外ぢ

弁社の勅使
通夜する夜　妙法
哥人の霊ぢうし。木槵樹乃
実とぢうし。ハ吾ぢ
めいハ證拠ぢ殿の告ぐぞ。
私の罪ハなく安楽ぢ物とおりろ
きぬ物乃ぢハなく

ま[illegible]
[illegible]
[illegible]

忘憂

尺八 又魂魄 飛揚 旧 忘れ

みうえのよ經巻をあけていくのうえをも。
錦よ廻文の詩をそる[illegible]
とありひそかにやそこをかりてまにそうかあらねた
りひそ柏木の後ついわのそのほよやうひしそ
ふるる。昔惜身命為報高恩今雙遺
骨為休憩墓とひしそ贈公の文をまりの
しゆそ

曽

其曉

ソノアカツキ 行 経の声 [illegible]
別の勢 旅立 墨の肌衣
入定大師 約束 又寐 起卒天
灵妄
観念の床 金峯山 笠置山 三井寺
佛の滅後五十六億七千万歳 弥勒
仏世
[illegible]

僧

放下 車 紙の服 仏佛名 仏修法
入院 葬礼 修行 辺山 年忌 芋
月下の門扣 傘 野
蒼苔路滑僧帰寺 と朗詠し 鳥宿池中樹僧
敲月下門とも詠せり 土肥次郎
救 [illegible]
檀 [illegible]
足 仏法僧とそうつ号あり

僧都

山田 三綸の山伝 鬼界の嶋
桜川 平等院の法法
源氏小山よ向ちのひしそ付ちそうせしそ僧
都あり 往生要集を作て念仏をすめし
慈心 僧都 准三后 職原抄 [illegible]
[illegible]
や 羊 [illegible]

僧正

花山　良峯　塔池　えいさん

鞍馬の谷　わくごの天狗　遍照

婆羅門僧正ハ行基菩薩の招待にて。はるばる僧正ハ芳野の桜木　切杭

縁ハ塔川百日の作善ハ芳野ハ奇人

そも兼法務　聴蔭車　ゆかしハ恵慶領　なし来の面目　堂塔建立

祖師

海老喰　屏風　入唐　渡天尺八

達磨を初祖として禅流三派を伝ふ。

馬鳴ハ浄土ハ祖の如く道元ハ洞家の元祖。

弘法ハ真言の源。法然親鸞ハ日蓮ハ皆日本

一宗くの開山とや。寺ハ祖師の掟をもちり。

童教ハ祖師の公とをもてそよ

幸都婆

小町　流人　三悪道　遠ざく

盂蘭盆　多賀神山　晩香　年忌　下乗　卒都婆

六体の地蔵ハ造りなりそよ

乞場を踏ざく大悲の弓像を石なり廻る地

発心とゐ月七ケ日の如向のはるかとをんいろりと

世のうひそそろ

反橋

虹　亭　神木　流水川

住吉　八幡

作者の館よすゑ風は池をほとりそよ

ゆふべのハ炎天の法ろりてもよ

ゆもらくとぴんと東あをくて海の

この石とろく中作人橋をわたるハ泳わざ

染物

華　茶碗　矢の羽　筆　財布

錦木　六条　家盛の祭山　団子

蓮の糸を染てまんだらをと

しん紙戸のハ燈とそめて花束の人よう

墨子う絵とんそ流ーハ英里よ染るをりそ

うり。加賀染とゐハ紅のうろちやし。其利の深物を

いろぐそろくぞ。京ハ上京深下京深おり

社

蓬　そうくう　柄木　木曽　敷づくり
堂塔建立　小比え　巻向山　山稜
社人　しめおろし　太神宮　造営　入
の修造　社人　ふそう　御蔭のごとく
香炉　護

神

塀　渡　浦　うわさつじ　尾花
人の公つくく　ものに　くるい　神とのみ
後撰集の詞書　葬　神　ここ
五度神を　一、八

神ㇾ

双六　三味線　傾城　旅籠屋
道連　わこ　糸　引ぬ前
跼　東家　牆而　攫　其處子　則得妻
小式　みゝ　何　よひ

遊女　神を　ふつ　ひ
教　て　女の神　ひ
まつ　人　よひ

園

胡てう　菜　そ
ひゝみゝ　人の　園や　ん　そ　ち
死園　帰来　池苑皆依旧　作ㇾ八　妃
跡　園　日　流　想　温公の独楽
園の中に　名あり　おそ
園　よ　そ　人の園　ふう　ん
園　よ　そ　ん　ず　の

厠

井戸　楣　拭
立臼　囲炉裏　心　藝能習　箱
巾着　奈落　みづ　海松布　上戸

十五夜の月　竜田川
葉のさゝら井の　ら
の滝つぼ　庭　竜宮　檀の浦の敗軍　海の
庭　そ　逃　ち
の狗　そ　ち　大

さる魚ハ腐ふとおそ。霧の磨なる松出

の琴こしょうこう

糊 ソクイ 社の切口 紙小 紙袋 紙衾 そくび

眠 眠 釘 琵琶の柱 禁中 裏

大さるの灸ハそくいしてもゆるとも出籍のみ訳

のまくれる灸ハそくいしてもゆるとも出籍のみ訳

しる。書舎ての消息いろくつしべし。祈禱乃

れいたそくいろくつしべし

蓑 ソウモン 四季のうそうめ 消 及第 暦博士 一村 入院 馬の辻毛

蓑虫 哥撰集 朝敵蜂起

盧生う多中ゐ王よなりし巴ゐ伝ゐ蓑向ゐて仙家乃

酒とすゝめ巴ゐ家の学ゐ老よ

もゐれゐさくそ。岡の名ゐ移る結職人ハろ

うこれるそゐ巴楊き妃よ逸ゐ小方士ゐ小督と

易ゐゐゐ仲ゐなり

卵面 ノーモ 砌 花の陰 垣ゐ 樗 宿

虫の声 萩 すゝき 柚

寺社のあるいハ垣ゐまわりにてゐ面よ並木ちげく

植わりにしてもせうかゐ。ちげく周の上ようくさ

おわりのゐ面なるもびろうそゐわれゐるゐ八

まちくさわるいもうつゐ。ゐ面よち稍

のくゐゐこそ花なりと

蕎 リョウ 山畑 聖灵祭 おこるひのもり

病人の伽 生死人

五穀を断一行人も蕎ハ用ゐとやうくゐ

良いもうひけていそ。すゐのゐ。

冥途からのまて蕎のようき而れとも信濃ハこと

すぐれりと云なりうそ而

汰 ソヨル 人数 馬椀 踊子 拍子 髷柏子 踊子 草履 調子

お歩れ 髪 根ぜり 軍勢

幸木のそのぞそのいぶをし。戦場

の延すぐそうへ石川ハ教をそろへてゐるぞ。

先ものもの毛のそろそぬいまろ。

ろそろそぬいそろ。

つきなり

謗

婦 当宗の談義ニ法のいましめ
細工人 職うるさき 人亂さん
藝者 鼻ひる

叔孫武叔毀仲尼子貢曰無以為也仲尼不可毀也。與其譽於前孰若無毀於其後とハ韓退之の金言也。かげにてそしる人ともにせまじきハまさずとも兼好もいへり。誹謗木を立しハ聖代の附そとよ

虚言

月 日 星 虹 雨 雪 霜 雲
けいせい ばくち人 正月 幇間
梓巫子 きとのかい

平仲が洞ハ好色のあまりかが。中の松山波こそハ尚人ハたのもしからず。商人ハもぐにしてハそらごとしらや。ふかきさうしよ空言を書てうき新大納言成親の配所を十三日ぞかしとてかよひしハおかしかりけるや

空音

郭公 雲雀の一声 梢の蟬
猫の留 扇 関の鶏

天人の伎楽ハ空ふひでしかるべきかんかがらの音笛ハ公第ぞいるまじとかや。ひぞかり笛も篳篥もふせそ吹きれど也力倫充。普化の迁化よ空中に鈴ぐなりけるとぞ。月夜鴉の耳をそばだつるハなくとものあはれ

そねむ

後妻 螢火の灯 のぼる位
職人 出家人 妾 含めうけ

けるくのさまし〳〵きかれずしめを〳〵とあふせ桐壺かくきり。信頼と信西そ〳〵と合て世ハ乱れまつり。上陽人ハ寺妃のそ〳〵にそぞしとめられ戚夫人ハ呂后のうらめ殺されしり。弘法弟子と猴王といそ〳〵まぬやうかで下かいそ〳〵と見て道初門ふ身を投しハ本妻のおもさゞ。但吉の姫の妹を会せしハ継母のうらみひぞかし

反

弓 橋 刀 長刀 生魚 枝 表具
指先 手扉 生木 相撲 びん髭
髪 唇 わき腹 むし 沓

向歯を引て猿眼とハ判官のさすしへ。産後の人のそるハ悪症とかや。椋の木の椿ハ荷とりてが

上へそろとも・接ぎは着の物の當木のそらごとも
こそけうもれ

背 ソダツル 子鞠 ソダチ 猶まく 鞠卵 ゴ 椎木 ショシゲイ 初心藝云
背不合なる捨てゐるを妹の事ども育せう
ま・し・今井子文ハ野ゐ捨ろ〜を虎ぞそ
〜〜ろやひめ行ゐの箱を教と・ろ〜ろ
ハ源氏と教とせり・栗子とそ〜〜綿をろ・
色をそ〜そ〜〜ろ

息災 ソクサイ 親 ヲヤ 子 老人 祈禱のつど
祖父祖母のおもうでい孫子をるりのごとそ・
旅立人と送て何るのみうれとひやひ懐胎の
そ〜ろのなるハろひやと・なるの湯そ
人ようりてそ〜ろ

名所

園韓神 ソノカラカミ 山城国 永六二月上ノ丑日
ちこ〜ろてぬ枝と行ろみ
かり枠とハをく初らんか祖門俗

菌原 ソノハラ 信濃 山伏屋 やどりま
紅葉うつろ
出羽

苑浦 ソデノウラ 君ゐ
波の松衣う

素鵞の原 ソガノ 出雲 まぐ 焼ぶり
わづせこ 九月祭

苑師浦 ソデシノウラ 同 志摩 同名あり 唐衣 引綱
幸ひろ意 ろも貝 ろも
むなろも名 寡の妻 俺人
なこそろろわこもこわざ人

淺川 ソメ 銚前 ほくし 文好こ 宿ろ浪

苑湊 ノミナト 同 わこそぶり 唐糸 波特
ふろ・ 啼 ナク 秋乃狩ざあ
いろふ・ 芦 アシ 蛍 松浦ぶ

祢振之　大和風し女子　霧の堂

花の狭　なうぜ　陽羅の杜　ほととぎす

津

露

芦毛　沢毛　漢田　田面　うの汐

雲井　松　納　鳰　鷺　葦刈

仙人　古き歌　吹飯浦　若浦　山田原

伝吉　雑波　入れ漬の演　田蓑の鴻

亀孫　栗　鶯　雲雀　松前

佐夜継信ゲまと露著しるし。越後の東公坊が

ゐづけ　西道うみい露松とり。鵠不日浴而白

烏不日黔而黒とハ荘子也。林和靖ハ霧を愛

鶴帰華表已千年と作るハ仙を学ぶ

とのみ知ハ誤也。我髪杜甫ハ霧を蛇河よりぞ

まて女えくる小和歌ハ霧の

めでそぬめとよしう。六月十七日うハ露の庵

丁大内よりハ遠し。有孤鶴横江東来と赤壁賦と

林間白塔如孤鶴とも東坡作ニハ常恨白鶴来

巣我髪ニ杜甫ニハ

まくふうくみてくろハ

迷松上露濃蘚可筆ハ

山僧慧ハ露を飼ひくろ

さそくんとハ墓参ひくろ

燕

玄鳥　ゆりて　柳　小西の糸　文の関

簾　わくや　社の戸　糸の帆柱　誉うぐひす

こすの戸　社の祭　冬陵山の夜　石

彼岸　蚕男　悪魚　神輿　椀

燕知社日辞巣去　くこやも貝やさくれーハ

いそのうその中納言とうや燕泥時汚太玄経ニハ

燕如談禅　鶯演史ニハ燕自北嶺来投簡而

下一化為青衣童子ニハ化為青衣女子とも

つぐめくろ何ふなりあとくろのハ

かくれなく

露

ゑくろく　浪のちる　旁　月萩

袖の湊　稲葉　帝くろ誉　立

柳むしの名野鹿 杜風
河女 茅人 翁 装束 腊 羽う
末の下わざ一ぱ 小絛 乙芝
そそやかふわそけき樫の花よさうろと
野の白露と淡しかた文のこと撰集に当
得其露滅覚道成と維摩経にもあり。蝉居
高処飲露不知螳螂在其後とも富貴何草頭
如露杜甫う詞こ楊妃が花の露を吸て宿酒と
さ面せり

氷柱 ワラ、 彩 水棚 川岸
覧 谷

枕とも神とも洞法らくおそむとぬ盃とも
わく〳〵氷柱白さうひうく行あうそ
うつらうのひそわ〳〵常陸のそのの
うし堅氷在鬢とこしらくのかなるべ〳〵

月 居う
多にしむ 歩のね 渕りあ 此この夜
彩の空 老う男 付句の紙 旁そく筆
永さ和 さりろ 衣うり 夏そうく

緒の春 独りぬ かなふ
浦半 岩渡 廣沢 桐の葉 星祭
物あ神う 甲の立物 暦 紙園会の鉾
水賊山 私遊 馬の毛 もうく女 村雲
園扇 額 塩汲 蛤

南齊江泌小時力学家貧油不能常継毎
夕随月讀書及月斜乃升屋以尽其餘光
西来祖意月照梅花 李白於舩中捉月
溺死 楊貴妃帰唐帝思李夫人去漢
情と泌り 八月雨無月 源順
壁賦 前後 月をめぐくかそり三五夜の少よ
さ一月 ともとうと 八明加て仲丸う泳く祖う
きつん月の私ふとつくれ小野みそ多比若
のこくく百姿の大文なくく八十路をそうち
す秋のよみ月

月夜 桃灯 釜 朽木
鴉 蟹

いつを月秋小来の児のそ八心るの児の陸

月よしよしとよみ古今に序歌よ
ろおとゆみけうとみ
をかりよい方多くうるもの
ゆかうつひ月をとうろとそ
春浦ともあり

月次（ナミ）　連歌　市町の茅舎（ヨリアヒ）　談儀

月次の俗体は仁和寺法師宝山寺和尚
面ふせる月なとうそ
中なりくるもあり。念仏講題目講（ヲコナヒ）
家のおもも皆月なとうつし

月待（マチ）　神祇　釈人　孕女　旅の女

寺忌　餅屋

るあの月猶宵の独の上尼人
のいるつまタの空の雲
みに祝法一夜のでんとそ
声一ぱくちひ立ところ
出る杜のこのそ月紙行物
ともあり

月障（ノサハリ）　底の海松布　池の萍（ウキクサ）　山霞　村雲　岸（ホトリ）　崖（ケハシ）の木　祢宜

ふるくわ家のなくぬいさろくしるけ里
どもうろ紙るふるくひわりしそ安ハさかく
ハ住ともやめそこるを居ハ表ふ神をしふろ
のあるれバ伊勢人ハこそ
ひさりわまびわりわらとそ

菅（ワタ）　松の梢　苔の底　久米　秋風

朽の下あ　山路　宇津の山

岩根（ホソ）　細道（モミヂ）　古寺　壁（カベ）　石塔　仙家

紋羽　むぐらの垣

琴をわひてそひくろとそうるの菅の宿
のりせなろん老木いそれともそ
ぐのそひろもとこ海辺の柳をよりそ
末のあるねしぬまでうるる菅ハを
みだらに拳（ヨヂ）攣（ワナヽ）難抱（クヒ）字猿（ヲ）
椿（ツバキ）　谷川　川上　おせめ（ヒ）　数珠

油　火

谷ふくさやうあの桜の
のつゝみ 秋の河 ゆふれ
りくに棲ゐるといふ 夜蛾の奥亀山の麓
ふる雨八冬ごもりして水仙梅などさく 合く
生ひ 行ふ 雪 そそぐ 春雨 霞谷合 後の昏か
ぬまの鴛鴦

鷺鷥

山坂 川岸 三保の浦 皐月 灌佛 白炭 昏浪山
風ふく 岸 羊 灌佛 白炭 昏浪山
白つゝじ 夏 寒食 家鴈 折得驚鳥 夜遊人欲尋 来訪
寒食家鴈折得驚鳥 夜遊人欲尋来訪
鶯のめつかれ 夏夜 夏夢

莫楊

擬棒 お墓の駅
予判

なこつゞけのそゞろもさそずきにそゝろ つゞけのそゞろもいふとぞ

萋

草 芝原 山坂
小野 野ふ 川岸

堤

川池柳 竹 川名の里 糸川
私つゞく 狗うふ 蛍 鷺 田蓑
百蛇 中納言 茶 文 金銀 袋
綿子 香 人目 新田

川をの堤をつくりめぐらしそのうちにつくりわ柳塘漠々暗啼鴉ゝゝと柳塘洞起日西斜と隋煬帝の詠をも作出せり

塚

松風 虫の音 生田 冬野すさき

蛇 狐 狼 笹 草滋き道 舩路 深草 柏原寺 柳 筆 塵刀 女郎花 錦木 一里 すごく川

茶碗 矢

もゝ塚かもゝよう〳〵ゝ。あゝよるては鳴動をするゝ。ゐる羽の墓塚をこうしば貞女丸名とうんぜられ侍る。青塚空埋秦地魂とハ明妃塚ぞうりまの色あるとゝゝゝ。清明塚ゝ立条河永よあり

辻

馬頭 石 晝時 深くひう 風

番屋 すまふ 尺八 将棋 うたれめ

灯籠 捨子 石佛 西浄 くるさ

築地

禁中 人ちれぬ通い路

咸陽宮 寺 陣屋 佐藤の館 塵塚 制札 人斬

六道の辻とハ清水のうづまるのあゝ。ふるとうやゝ。ふるびくゞけるとゝ辻とゝやゝ。酒のえひハ辻へおいあるぞ

谷七ぐらの築地の数ハ凡八八百八門なりゝ。

倉の築昌なり。皷判官知康ハ築地の上にて軍のとゝをもぐり。六七ぐらり小侍ゞついひもしゝぐとをそびゆるぐなる跡にくづまうめるのおゝのゝ下に小蛇をとゝゝゝ。

土

燕の巣 蜘蛛 白粉 塩竈 壁 蛍入 天目 盲 巻の戸 槙木 生姜 大根 橋 鐘楼 ゝゝ 仏像 蚯蚓 泥一ツ 鉄さび 續文 閑性嗜酒臨 詣問類ヨ心 我陶

側然則百歳之後化成寺取為看寺
獲我心云々。立てる月の去さへ
なく去いやどる月の去さへなく
日ゝ我神ゝや君ゝわれ共ゝ去ゆ
八人の鬼のなるらるゝ上臈ハ去まじ。宿
ゐるさらゝの苑ハ今ゝも松風もゝ去よ
ちるらん

槌 ツチ

大黒 鍛冶 番匠 砧 秤 針立 栃上 畠 吉野こゞ川
刻印 石切 歌勅師 乱杭 扇の地紙屋

人のせれだるゝ鉄の槌をもて秦王をうんとなぐれば張良
鬼のおるゝ玄鉄よりあの小槌をゝ槌をもて玉連
環を破るゝ事ハ容易の事ぞかし。金言
派為ハ槌のうるゝ多しとうるゝ事ぞ。仏師し
鑿とうるゝ多し

剱 ツルギ

霜氷 冥途の山 蛇 鷺の羽 悪灵 眉間尺 わるもの

布袋野 志波海士
白河の院神泉苑ゝ行幸なりて狩とうるゝ
ゐるひしゝの指のとうるゝ剱をうけ丸と云添為
義よりのぶとうや。剱太刀とうるゝ共ゝ
めしもの人ゝ去ゝにうるゝ季札ゝ剱を
墓の樹よりけうゝ。青浦如姦満池塘ゝ趙文
王喜剱々士交門而客三千人日夜相撃於前ニ
死傷者歳百餘人と荘子ゝよんでゝ。又ゝ
院ハ姦の告ふとうりて剱をうるゝ。
おそれて宮ゝのゝ八鬼ゝ

釣鐘 カネ

華花 挑灯 天秤 釜 磬 宝鐸 風鈴 大佛 祇園精舎

三井寺 道成寺 竜宮
法事のそうまうるゝ袈裟衣を著もう
まうと云てゝ文学のそうゝ袈裟衣を著もう
ゝ放参小津ゝ行くゝ雄の鐘楼建立
ぬゝゝ。数山の宮ゝ去ゝ尺ゝの月おそろ
なり。あゝこの六道ゝ敗軍せゝハ猿うるゝ
つるうるゝ

鼓（ツヾミ）

春草 尾 浪 時守 判官 鉢

鳴弥 弥楽 万歳楽 踊 獅子

軍場 波瀲官 其紅 懺法 童の胘

勅命そむいて 鼓馬舌

文治よの帝のおんときひとつの鼓ありけるをみなうちそんじたりけるをすくしあけば悪代まうけし鼓し苦生ふれり。鼓判官ハ木寄によくまれる者也。平安の館にその鼓といふやしなへる雄なるかそれとしらずしてあたへしがやすひ節と俗にいふなり

釣瓶（ツルベ）

鮓 動進 墓原 極木 炉

檜垣の女 鉄炮 豊玉姫

褚小者不可以懐大綆短者不可以汲深と八荘周が詞なり。譬へば井戸ハ石をもてかこみとうしなひ待る常に縄とならくへとくに用ゆるもの也。以玉瓶汲水と代巻にあり。銘而墜鏡ノ既破碎不顧と同

壺（ツボ）

酒 茶 やきさ壜 土 蛸 腕 灸

藍 染 蜜 酢 薫 山椒 水

雪隠 柯 菊 梨 茎 掛合 地剣

花のる 鞦 茶師 出湯 俵前

丹波 信楽 天ゕ 油 皿

壺中ノ天地乾坤ノ外とハ費長房か仙家に入し事也。壺觴引以自酌といひしハ陶明也。これらのかよはれしいまも菊楼のこれにつきそまいらせしハ此の信名つゞれのしるくばかりとよめり

卓（ツクヱ）

経 仏壇 花立 香炉 染物屋

硯 紺屋 板木彫 野送 墓参

俗く名の鳴とよめり。内典外典詩哥連哥のすきもの窓に蛍雪を集てよむなども。山をそぶらの児唱食事からして永日読うめあそぶ

葛籠（ツヾラ）

笠 婦入 家掛馬

山ゑ 名古

みなすまう的のつくまつらあそれ我ある[illegible]しくのかの容のあかさあげ及ハ雨せげなるぞ城のは義ハ待社役[illegible]出[illegible]のきみ人名

引もわりうるみはたまかせ、はせかへにおかつく

綴

袮宜氏　舩　牛馬　手飼の虎　華乳
大刀　正月　虹梁　天神　網　嵐　戸口
祇園会の鉾　巻ろく綴　鳴子　袮お
佛前　心　筏　宇治川

てる月とまさられの綴よりうけておなじうきん
とうかゞんぱいそつぼの文さらへまてあそばしかつの
歎と文もうんしも車をひき八綱とめて引ぞひ。子川
のわく小綴とそゆるゝ大おゝかりのゝ夜よ綴ハ
そゆうとぞ

筒

護　井　花　鉄炮　芦　油　吹矢
酢　蛭　香水　舟の帆　らうそく
足袋　犬はめく　晋のよあり

おの樋ハそゝよ筒としてあそとどじたら。天文
とうんちうふ小星とゐゝる時筒とあてすりとうめ
少納言信西と土よ埋て筒をさして息を通し
けり

頭巾

老人　長老　とそり　みそぐく
物もし　医師　大黒　坊主

猟師ハわくそつきんといふものをかぶりよくきくん
ゐる徒の弟子そハかぶるぞ。途中よそへよあつく
ハ先づきんとるするぞ。ありひあり(き)ハ白衆とかくして
うそゝめくなかるひそ。狂言師の末社の袮お家元お
立よりかぶるなき

爪

琴　五徳　馬　文字の白点　猫　鷹
鶏　ともぐり　薬　昆布　風呂　橋

丑刀の日

湯王遇旱剪爪髪以自身為犠牲禱於林
雨大至
さて崇徳院ハ配所まて爪をもさうはく
まし出さりぞともへの疱瘡もちる小爪さうてうさ
やそうおそうにと用ひもちぞ。蚤も風も爪をあそ
て死ともぞ。爪とそあ心ハ心中とそそんとそん。爪かとお
ぐなりかそるとそて日とうそふれハそふハて百く
土佐日記なりり

妻

衣　若菜　豹　琴　戸　猫　七夕
鹿　一夜の宿　松浦舩　簾　肩　汁

琴とれハまけさ先さうけゞして琴のりうひ
小妻やうゆれる。ゐちてもまよみとそ良きらく

ふこんと侘をん今うりそ
媒者中々安顔如子
ちぎりおり。祭礼厳ゲ三年そひ一ハ孤そ
しとくや

杖突 老人狩奉行 旅路 先頭
普請場 踊り乃字 麻ゲ 荷持
のぎり坂 大工頬 諫 初午の日
山焼 うそふ 祭礼 初午の場
國阿上人の杖ハ吉山正法寺にあり。五十杖於家
六十杖於郷 七十杖於國 八十杖於朝と礼記へ
郭休う杖ハ夜行ゑ十歩をそこすべきあり。杖
屨祇敬之勿敢近と内則ゑ出ゑうハ教ようふ
ゑ授なりいりめてハ女のやこそそこ祖ゑあさ
まの杖なりせいうさうの杖そそ女の男一た
うねとうそ

礫 天狗 下地 闇の夜 雪 文字
犬 狐 条礼 婦入 狩ゑ猪 木実
山城責ゑ 産衣の川波

使 文 ゑうる中 まぬ夜 旅なる人
居 犬 喜 軍 荷前 鞍馬ノ盗
陳時の条 諸社のを幣 玉串 於
朝敵退治

みそこゆくやも使しくハ
さもうすいとせこう役を行と公てもさそ出て
そしゑのふくふ雑と使よせ一ハ天雅夜の役
三種の神器を沿しのとそ手家へ仕せ一元方
ハ波方と云焼ゑうせこの役をうそ。
鴿ハ父つひしそ

粒 珠数 九条 緒ぎめ 麦米 大豆
芥子 猟山 餅 食 三月のそね
銭 白狼

柄鮫の白まだら（サメ）
脇の血ざくろとりつ
の塔をして舎利を安置（アンヂ）
ツル
弦
ゆまでまき 弓（ユミ）うん矢（ヤ）へ 梓（アヅサ）鋸（ノコギリ）
清き坂 業入
ずいぶんもつくうちにて
うつくしの浣（アラ）そのるゐうの絃をうつくし
股帯（ハルビ）をしめつゝ八字（ハノジ）治川の先陣の例（タメシ）
しぬ花の春をみつゝ行垣（ユキガキ）
こゝをそのれひとりうえこのまゝひつけうひ
ゑかうらまゝひろこそ我妻のまゝこそ代の為
しうつうのこふこそ水もなりなれ
ツレ
徒然
双帋（ソウシ） 永夜（ヨナガ） 日乃（ヒノ）出（デ） 黎明（ヲシアケ）
馬牛（ウマウシ） 洞川（トウノカハ） 中陰（チウイン） 狭衣（サヨロモ）
枕草子（マクラノサウシ）
ありつゝもろにまうてくおうこなまつにつまくくと
おうほくてかうはくれて惟（コレタヽ）るのまゝをか
くありつまくくとうなくうす夜の月をかく

うゐしさせこの教（オシヘ）のおろかなる寂寞（セキバク）の苦（クルシミ）の当（アタ）尺（シャク）と謎
しうろうつまくなる
ツレ
連
三里廻（メグ）る 旅の道 寺参（マヰリ） 夫婦
馬（ムマ）ハる 牛（ウシ）ハ牛（ウシ） 旅の役者 尺八
ちやせん 章
小奇麗（コギレイ）
警固（ケイコ）と梶原（カヂハラ）ハ生田（イクタ）の森（モリ）の義よ
ハえびのめをとるめ
笠（カサ）うえ ひとりなぐろ
そをくおうつまそこうつ
なるろ
ツレナキ
雑面
涙（ナミダ）ひまろ 死（シ）つきぬ恨（ウラミ） 消（キエ）ぬ命（イノチ）
果（ハテ）なき 祈（イノ）ひら旅
かへしの父 中の関守 契（チギ）りおきてし郭（クルワ）公
なくく月 もりすゑの雲 宵（ヨヒ）の別
附（ツケ）ねにそまぬ松枝 老（オイ）やりめうくす
消（キ）ぬ名 うくくさくの松
すしなるひとへひとつとゝそすぐりあいうつ
うのみそぞし 滝（タキ）つぼを横笛（ヨコブエ）がたくさいま
こゝにのこれ 尽（ツ）きりの姫う妻よのあ世（ヨ）いのあ

をの柄とのこと り綿木のちぢうるり細布
のそこゞりせゞれわうべ ようみれど
らぬ札行のくのかなりんまーく

罪 ツミ

盗人 地ごく 牢つなひ 不孝
人の妻おかす 猟師
罪科 あやまち 海辺 おこつまさや 六阿のう〇の
ありうがうちそすれつくとうけべで
くもあり五覇 三王之罪人也
曝 ツバキ 矢とぐ 腫物 皺の皮
不実紙 百足 麦波粉
私のよふ 嗤ハ笑合てくなり。神女がくり
嗤ハ瘡となりうち。人有嗤面潔之而已乎師
曰潔之是違其怒也正使自乾而受之是也と
いつそ汝を諫べさうくもお紙とそれ嗤とため
ぐくつ

角 ツノ

芦たくい 鹿 牛 さゞい 桶 鬼面
刀鞘 くろふり 羊 水牛 竜 菱
卓判 竜馬 文字

一旦秦皇馬角生燕丹帰此送判御 天智天
皇よ角ろ白馬とを垣とくく角とろく
牛とろとや陸放翁虎猶角者。麒麟の角の
先ろ肉わりとや物とそこのみなくんとあり。
漢書一柄牛の角の上ふけて後一八随李蜜と。
ろれもこうわのいくせの角の次の角のねおいはろ
もあるん

朔日

礼者 暦奏 田面の祝 衣ぐく
賀茂の足揃 松ケ条 筑摩祭
吉野の餅くぐり 小朔日 院の拝礼
朝賀 四方拝 氷室 神送 服赤乃賛
屠蘇酒 氷室 乙子
吉月必朝服朝 注吉月朔也。八月朔日松尾の
社にて六斎念仏をつとめあるとは相撲あり。毎月一日
沐浴短命と遺誡註ろ。祇園社ろ六月朔日ろ
神輿とお殿ろ必一なる氏子あけくまつりとま
たあけくれよりろ多ひとをとうあろ六朔日のこと。
し物そくあーす物詣あり。て衣の奇ろ。
もの奇八休生ひ物日あそ物つろくろ

晦日

追儺 住吉のはそ祭

みそ月の祓 玉祭

昔みそかくらき家と夜の若うくるやうにめれてそもかてわつ
晦月とその日夜そがつにはそとうちろ卯月の晦日の日右近の馬場にて親さ
うんとそまりろくにおひてさうびいさそや帝の後
子親さうぬ半のかおうてらん 鉢扣のまゐし上八晦日くし 賀茂は神る祓をつと
ひろ八六月晦日へ過去帳よろ歎迎如来晦日へ山ニ
奥列ゲ祓へ責上ゲ八十二月晦日ろり

釣

太公望 白髭の神 ゑひす 簾

竹自在 鰐口 蚊帳 手菜 蜻蛉

狐 系圏 髪結 両替 舟 花生 格子

鐘 材 髪 魚風鈴 串柿 鉦 女房

灯篭 棚 釜

朝雲 釣月 浦路 釣する亀八頂上にまきい

摘

茶菜 紅粉の花 楸 綿 生垣

作り木 砂を塔 ふり袖 船荷 雪

新俵 石垣 桟木 稲 菊 花筵

三日のうらおいそこしぐ
そこうひし摘鮮 造旁旋 封裏 茶歌 うけ
わかつそ万代とひ特 とうそいおりひ
ふとそ子れま

強

相撲 衣紋 盤上 文字 敵味方

大水 大風 秤目 まゆ 物の数之

弓 家の柱 腎精 力心運 無氣

根氣 信心 酒のこ 見貧 月

子路問強 勇

呂氏が強梁「鯛」なる梁とハ漢書の譲位あり
つ荷ると詠ぜり。つ〻ハおゝゐのこなされいふと
ハ小町が父なりしを〻下りて〻つゝをそ
水とふせぎけると宇治の軍配なり

繕 ツクロフ

衣紋 土の焼物 上の前 古家
桟嫌 古道具 祠 白粉 外字

佗数寄の垣壁を不じく仕なくしる 馳走の心ざし
やさしく見へし。古器ア墨跡や〳〵の御仏像古籍
こつけるうひきるハいとしまづしき人のわざぬ掛
その人のこうぬ人の古ら良縁ハおほし

繋 ツナグ

牛 馬 猿 人 天 銭 珠数
人 鷹 竹生嶋 猫 芸 囮

衆生煩悩の業苦よつなかれてそ色れが〻梵天
よりおとし大海の底の針をつなぐとハ〻
おるうつ相馬ハつなきるの紋〻蜒のそりくわ鳥
つなぎとよめり。女の髪筋をよれる綱ハ大象
もよくつなかれし。河橋ハ洪水の時わやくき〻
それし。論命ッ江鳥不繋船とハ朗詠く虚舟不繋
ともそり

仕 ツカフ

兵法 〻 長刀 小刀 てこ 金銀
鷹 〻 猿 虎 牛 馬 犬
軍法 進物 綱 楊枝 下人 假名
詩の平仄 文字 水 臣下

四十始仕 内則の詞也。釈迦ハ仙人につかへ。范蠡越
王勾践につかふ。〻〻〻者よ三路盤のつかへし〻
へなり。常盤が清盛につかへ〻公子とおりなへ向
〻よ古語をつかふハ将戈のわざ。作る〻古木〻〻
〻ふさうの人の〻〻天地とともふ〻〻〻ひつ〻
〻まつりしかたがひぬ

作 ル

詩 酒 みそ 酢 醤油 刀 書籍
佛 罪 眉 田 畑 家 棟 舟
咄 人形 荷物 髭 十面 〻ふ
男づり 草履 草鞋 膳 そうこ

〻羽の作ハ〻〻ハ〻の羽〻〻そられてなり〻
ふわ〻〻〻と〻〻。蒼頡ハ字をつくりてそ鬼神をな〻
め。容成暦をつくりて六甲をさだむ。〻〻氏ハ〻〻
〻〻〻〻〻。〻〻のつくのち〻〻。奈良よ〻
〻〻〻〻〻〻〻の田〻〻〻〻〻〻〻〻〻

…君をみるの意 **結**（ユヒ）ふ 慕 恭（ウヤマ）ふ 風呂 荷物 篭 鉄炮の玉 刀
脇差（ワキザシ） 城の兵粮 法問 継（ツギ）の尾（ヲ） 物見の場 詐（イツハ）詔（リ）人
律儀（リチギ）ハ奇（キ）ニシテ又つめとそ…ふ酒の
楷（カイ）ハなくぬぐはとよろしくあの紙こゝろずして
細字（コマジ）をかゝみるこうさ 楷書（カイショ）を埋（ウヅ）くる炭そ
つめるこゝ栗津の汀（ミギハ）を追（オ）つめてよく兼平（カネヒラ）が
宮ゐの軍なり

積（ツモル） 雪 塵 埃（ホコリ） 恨（ウラミ） 思 差用 罪科
年の数（カズ） 物結 木の葉 なごみの盃
普請（フシン）の人札

年の数つもりもてゆきてはいくこゞけをこ
ゐてもそへなんぺのをうごに恨とあつそりつ
やうやけんてあつくなりゆくく相違の実ア
よるこゝ。ゐそつりそして閑となりくるこゝ
実を問つるそへ智者とゐる。

そゞく 肝（キモ）臓 物 王子 耳（ミヽ） 碁（ゴ）の劫（コウ）
城責（セメ） 古（フル）く道具 眼（マナコ） 古家
氷のごとき 母アハ塚（ツカ）てもせんぬ 墓（ハカ）ハ田畠（タハタ）ゐるぞ
居（ヲ）ど。地震の時ハあの内こ

突（ツク） 堤（ツヽミ） 地形 絶（タヘ）杖 米 餅 略（ホヾ）御 飛
連歌（レンガ） 味噌（ミソ） 座す 鐘（カネ） 鯨（クヂラ） うそ
銭（ゼニ） 経木

王兎（ワウト）塙（ハナ）に。平相國ハ兵庫（ヒヤウゴ）よりうれ
前栽（センザイ）の山と築（キヅ）き 塚（ツカ）をつく其築（キヅキ）欲（ホツ）
よの家駝（ダチヤ）ずまを極（キハ）めうつのをこく 悪（アク）人を
ヒヨ そつくこ

緞喜原（ドンキハラ） 山城 宮里 長月 秋草
久（ク）原（ハラ）の名 木津川 泉川
久保（クボ）の教 もゝ野

月輪　清滝　峯の尾　栂の尾　槇の泉　刀
（キヨタキ　ミネノヲ　トガノヲ　マキノイヅミ　タチ）
津守　摂津　浦瀬神　住吉　君が代
（ツモリ　ツノクニ　ウラセノカミ　スミヨシ）
宮井　濱松が枝　遠里小野
（ミヤヰ　ハママツガエ　トホサトヲノ）
衣掛　たのめ　そこぬ夜　天隠の神
（コロモカケ　アマノカクレノカミ）
岸の松風　岡夏雪
（キシ　ヲカナツ）
月讀　伊勢　神社　鶯の宿　笹山　櫻
（ツキヨミ　イセ　カミヤシロ　ウグヒスノヤド　ササヤマ　サクラ）
嵯峨　大堰川　あこそうらやま
（サガ　オホヰガハ）
鶏鳴　相模　松の葉　八幡　鎌倉　石代
（ツルガシカ　サガミ　カマクラ）
雪の下　小袋坂　山の内　柳
（ユキノシタ　コブクロザカ　ヤナギ）
静り　暁　実朝
（シヅカ　アカツキ　サネトモ）
筑波　常陸　山嶺　河神　こかの川
（ツクバ　ヒタチ　カハカミ）
鹿島　君が代　種のひぐさ　菊
（カシマ　キミガヨ　タネ　キク）
とげさんこのしおりの花

同　くらまの宿　笹山　櫻　紫
清滝　蜩の滝　槇が泉　刀
（キヨタキ　ヒグラシ　マキ）
栂の尾　禅定敷下しき
（トガノヲ　ゼンヂヤウシキ）
摂津　浦瀬神　住吉　君が代
（ツノクニ　ウラセノカミ　スミヨシ　キミガヨ）
濱松が枝　遠里小野
（ハママツガエ　トホサトヲノ）
竹の教　山田の糸
（タケノヲシヘ　ヤマダノイト）
富士　四夏　雪
（フジ　ヨナツ）
伊勢　神社　鶯の宿　度会
（イセ　カミヤシロ　ウグヒスノヤド　ワタラヒ）
公暁実朝
（クギヤウサネトモ）
筑紫　種のひぐさ
（ツクシ　タネ）
流人　平家　唐船　安楽寺
（ルニン　ヘイケ　カラフネ　アンラクジ）
箱崎の松　順礼　牧多　松浦さ米
（ハコザキ　ジュンレイ　マキタ　マツラサヨ）
宇佐八幡　六交　菊池
（ウサハチマン　ロッカウ　キクチ）

恋の剣　君が代の橋　連弁　著木
（ケンノタチ　キミガヨ　レンベン　イチジルキ）
白玉山
（シラタマヤマ）
近江　野江沼　神祭八四月一日
（アフミ　ノエヌマ　カミマツリ）
軒の雫　九月夜　難面人　三稜
（ノキノシヅク　ナツレナキヒト　ミツカド）
鏑の教　わやめ
（カブラノヲシヘ）
敦賀　越前　濱浦　市　米商　舟
（ツルガ　エチゼン　ハマウラ　イチ　コメアキナヒ　フネ）
小舟の跡　越の海　隠居
（コブネノアト　コシノウミ）
敲渓　肥後　津の国　木牙峠
（タタキガタニ　ヒゴ　ツノクニ　キノメタウゲ）
あやうき山
（アヤウキヤマ）
鶏郡　甲斐　君が代　板野
（ツルノコホリ　カヒ　キミガヨ　イタノ）
白玉楼
（シラタマノロウ）
何しの押領使　染川の里の女
（ナニシノオウリヤウシ　ソメカハノサトノヲンナ）
筑紫　流人　平家　唐船　安楽寺
（ツクシ　ルニン　ヘイケ　カラフネ　アンラクジ）
箱崎の松　順礼　牧多　松浦さ米
（ハコザキ　ジュンレイ　マキタ　マツラサヨ）
宇佐八幡　六交　菊池
（ウサハチマン　ロッカウ　キクチ）

猫

鞠の左　みそり　併蝶がう

鉤簾のもとに　真菅原　火燵

柚の木の下　打萩の　人の腰　人の脊

祖師　女三の文　胡桃　膳棚　天蓼

千鮭　鮞　鰹　雀　竈のあるに　根奥山

ろ菜上の猫　まごく　やつるぬ　やつる

となりくつ　ころころ　ころ。藏納戸の　附木の　そば

てまわりうるめとの　猫の妻　ひさげ

猫ハすくれて　鰯しばなり　ばしとろや。うろ

ーたのびてやくでのう　猫の妻　ひさげ

乃夕多。猫の鼻ハ夏至の日一日　腋こそ。陽

大葉の猫がつぎをなす　野干の猫

狩馬

鄙　硯斗　上方山　紀無山

濱菜　こゞ苔　青

鼠

舟扇　栗　月日　田米藏　油大黒

箏用　早稲　絵葉　戸　天井

氏鳥　厠　壁土　双紙　灯臺　鳩

紺屋深

拾遺集云ねずみのことのつくみを生うるとも

ほ事をつてあるそのこころねをうしなふべからず。陳太とのみこ

をうばひ白金五十鋌をそこなふ。王周南不應鼠還穴。五雑組ふ。

其昔死周南不應鼠還穴。五雑組ふ。

虎のこゝろひらかれ　い昔ゆく　今ハ鼠のわざ

らの外ぞの根をそこなひ鼠とともに八月日のるとこ。

鼠のいふこゝろ　ふひ　ふ

いふるとこそ

圍

灯　月　斑　扇

弓　古つる　古枕　麹室

作法の囲ふてなかに　養在深閨人未識　楊妃

閨ハ戸のうちにこもりゐるをいふ

のうとうろうおりのやくわりやくそ
国のひまそうれいをうけたまわり門之内具(ツブサ)に
乎叢(ヒソカ)父嚴(ゲン)兄妻子臣妾猶百姓徒従(トモナ)にも
ハ孝経なり

寝(ネル)

麹(コウジ) 納豆 借銭 酒の酔 雲の行
牛(ウシ) 風(カゼ)ふきおろす 赤子 家会の私 猫 ねずみ
風ふきおろす 稲 盗人 蝶 蛇 病人
神ねつき初(ソメ)て森(モリ)不側(ソバ)と小学のてつぺうう
ハおやの語(カタリ)よゆるくと移(ウツ)れうつる
まくふとれいうくんよおくされてもと先君のおる
りひとつ筭(サン)うハ雀(スズメ)柿(カキ)のハ驚(オドロ)かねうぞ

寐起(ネオキ)

稲 竹の雪そらみいくく話(ハナシ)
急(キウ)なる病家い医師針立の門の戸をたたくさ
とびとびとりあげぐくハ学(マナ)ぶもすびのぬ松のか
とる我兄才(サイ)ゞ敲(タタキ)ハ神ふるとおこて井うち木下(キノシタ)
のすゞまふくくれどうちこちうさうけこひ

寝覚(ネザメ)

綺(アヤ)

木芽路(キメヂ) 手祐(テスケ) 荒嵐(アラアラシ)
惟茂(コレモチ)ハ神(カミ)ふるあか鬼をたいぐらわしく盧生(ロセイ)ハ
神ふるあよ悟道(サトリ)そくちり。遺精(イセイ)ハ自(オノ)ずあてしそ
ゆまぬ私(わたくし)とし神ざりてせんをしそなくそのの
もあてぬまやくらん。雨をとうしめれたげ
山里ハとけの延よ神ふるそする

寐物語(ネモノガタリ)

新松(ワカマツ) ふる石 傾城(ケイセイ) 笛(フエ)ふき
敵(カタキ)ず 義濃と近江の堺
南のお湯(ユバ) おさるい
後醍醐(ゴダイゴ)の代の乱ハ神おそろうふ歌しる。
林のまれちふ江一郎ちなくもなくす神そそうん
ちやなる句んぺなりもなくす神そそうん
ふれいそこしーやこにこそなりものおもの
ひしーハくくいの家そそなり。

眠（ネムル）

海棠（カイダウ）胡蝶　猫　寒山　拾得（ジフトク）
豊干（ブカン）　虎　馬上　白蛉蜊　老人
座頭　番衆　五十年の栄花　酒の酔　奉公
維茂（コレモチ）　森　月（モチヅキ）　夜伽（ヨトギ）
抱月懐中に枕斗（マクラト）眠と化（ナ）る。江尼（エニ）なりけり。日高丈五（ヒタカジヤウゴ）牖（マド）正濃（マサノ）軍将扣（ヒカ）へ
初夜（シヨヤ）の鐘（カネ）を聞（キ）くや。門（モン）驚周公（シウコウ）を。童子（ドウジ）莫対（ナカレ）奢頭（シヤトウ）而睡（ネム）れと秋
声賦（アキノコヱノフ）

子日（ねのひ）

嘉辰（カシン）　野　行幸（ミユキ）　ひく小車（コグルマ）
蒙（カウムル）のこゑ　ふじの　嵯峨（サガ）野
春日野（かすがの）　雲林院（うんりんゐん）　牛房（ごぼう）　すゐ
みどりの　垣間見（かいまみ）　大黒祭
三人の姫君（ひめぎみ）そのくるま。逢坂（あふさか）まで送（おく）りぬ。桜の上（うへ）なく営（いとな）の教（をしへ）を
伯吉（はかせ）初（はじめ）給（たまひ）よそくさ。松（まつ）の上（うへ）なく営（いとな）の教（をしへ）を
そ初（はじめ）の日（ひ）のくるまの跡（あと）。ちよろ〳〵水（みづ）に流（ながる）。
ひめこ松（まつ）のもろえの色（いろ）。きさらぎ小（こ）ふじ。

後成（ごせい）の述懐百首（じゆつかいひやくしゆ）前（まへ）

法士（ほふし）なりく海松（みる）そ

の中（なか）そのゝ日（ひ）なり

年号（ネンガウ）

暦（こよみ）　残（ザン）帳（チヤウ）　形（なり）　刀（かたな）の銘（めい）
日付（ひづけ）　諷誦文（ふじゆもん）　辛勤婆（しんごんば）
橋（はし）の銘（めい）　除時（じよじ）の名（な）
西（にし）ゆうち入（いり）　必（かならず）　飢饉（キキン）疫疠（エキレイ）
わやくさ　われ　又（また）　飢饉（キキン）疫疠（エキレイ）
名（な）　其年（そのとし）　喜雨亭（きうていの）記（き）　漢武得鼎
て養老（ようらう）と年号（ねんがう）　養老（ようらう）　泉（いづみ）
岡（をか）　年号（ねんがう）　漢（かん）　代（よ）　三
号（がう）

念仏（ねんぶつ）

すぐ　暁鐘（ぎやうしやう）　壬生（みぶ）　中将（ちうじやう）
山住（やまずみ）　臨終（りんじう）　許（ばか）たくさ
念仏鳥（ねんぶつどり）　静聴林（せいちやうりん）飛
念仏（ねんぶつ）鳥（どり）と作（なす）　念仏（ねんぶつ）　間（あひだ）　日蓮（にちれん）の門（もん）と
ちやう　念仏（ねんぶつ）　接（つぎ）あげて念仏（ねんぶつ）の
ぞ　念仏（ねんぶつ）

ハ都ヨリそまつし。疫病ヲ念仏ヲ唱テ治ス
わづらふ

糸冝　糸ヨシ

社領　奈良　伊勢
出雲ハ加茂より。圖扇ハ奈良ヨリ。
松尾の伝田加茂の水ヲ育なくの糸ヲ機女ヲ擇
てもろあ良こう。うこうの杖ハ糸冝ヨリそうて
とるやうに供田社領よりお入ハ糸冝のまろおし

練物　ネリモノ

糸わくひ餅　膏菜　京竜
糊　きさんごぎ　ろうろう　菜館　地黄煎
分別　行列　漆　鉄仕ヲ多　白飛
詩有曲練二日練句二日練字三日練意四
曰練格ハ王屑の言葉のきをそうぼるこえの
如うそえて常陰文のまをそうぼるこえの
大元を建扇下ヲ神ヲ祈ろこ。去ヲ祈りそいうて
りのヲ作ヲ。扶ヲ神ヲ祈りてハ母物ヲ作ヲ

癖　ホクト

香合　笛　管　なくぐひ　矢
柱　生風呂　牛角

わくにんなくこえの肉食して必ずゆうやそ。
寸以上曰癬疽一寸以下曰瘡癬大成論ハか
けろ。温茶辛辣のたくひヲ服して祈ぶく
おわうるすべし

根　冨士　筑波　甲斐　矢　岩山　垣

柱　舌　病　腫物　茉種　以髪　耳
蓮　石垣　城　虫　鳥　鹿　笛　琴ノ弦
半篠　牛蒡　房　鬼灯　意趣　香草　芹
異根不帯塵埃氣こハ菖蒲のすこ。
そんこうらて竹の節ヲ
根拳而五易こハ樹のうへやうみくぬいはし
めこ。そちこめ神代の頃こもろ〇ヲ移し
民ヲ根のごとこハ神代の頃こもろ〇ヲ移し
こごとこうに死しも死ヲ葬ヲ
ハなき共ゐ心こ

嫉　ネタム

桐壺の更衣　徒子
妻妾盃鳴尊姉害姉由こ出息所の神こ
葵上ハもの人ヲ祝ヲ

ようとたにくさをそ
ゆゑ仏の女えをさめぬ
川せそくひそ仰

祢らふ

獣狩　的矢　親の敵　盗人

磔　穴一貫物　楊弓　鉄炮

又ゝ祢らふ猫の鼠　蹈ら鰭　腰巾着

時ゝ祢らふ猫仰の　魚の骨ゝ祢らふ

魚を祢らふ路ゝ　いたづひよ祢らふ

祢

子ガヒ　ね生　病中の食　をすゝの切字

歩よ牛の鼻　弥ふまふとも神

我子のゆく末

位やゝくれが貴ゝ祢りくい芸の

へゆんのこそ祢りくい芸の

なんともあり。弥陀ハ四十八願之星条之尺

祢づひの糸をくるとそ。中くふ人よわる

さ共酒つぎよなたをもて酒みゝ

なん

祢ち居

煩髭　上戸　蚊の杖　ゐる

棒　もんこ　くさり　犯罪者

針灸

ゐる神ゝよ祢ち名わり。盗人ハ鎖ゝ祢ちそうと

ゐり。ゝふ花紅葉わりゝ盗人ハ鎖ゝ祢ちそうと

ゐ共花師ハ役ゝとりくふ祢ちそうくこり

祇

猫の子　牛の子　羊　げりく　飯

地芙蓉　祢り菜　砂糖　塩加減

味ゝ

ゝあゝまちの女ゝよ祢ぢりくそうと

のゝしゑ祢ぢりくそうと

しゝとゝや泰王有病召医破癰潰痤者得車一乗

寿者得車五乗荘子よそゝり

祢宜

名所

子サノ

義濃　秋の夜　人を恋

わさゝこ　ゑの川

子日遊

舟後　堤

海松ぶさ川

眠森 衣被(ヨリ) 生成(ヨリナス)るもの

根来(ネゴロ) 椀 法師 高野 覚鍛(カクバン) 粉川

奈

茄子(ナスビ) 一名 石竹 原の竹とも 蔓(ツル) 笹の葉

山賊(ガンゾク)の垢根(カキネ) 高野 妹(イモ)ろ 法師 高野

あつさ日 さ百合(ユリ) 夕(ゆふ)べ 内裏 綾(アヤ)

四条大納言の歌つくろひに 秋の上

折りの捨てをり捨てるをとりて

のわらはにせさせけるやうに

こと大徳ふる。結句おもしろし

てこそうらやましけれ

のかはさきもうもれるものうらやましきものの捨てをり

茄子(ナスビ) 肖戸畑 聖灵祭 高畠 茶へ 鰕汁(ノケ) 蔵汁

園の蛍(ホタル)を踏こころ 骨茶 わらはのす

茄子(ナスビ)なりもしくは 疱瘡(ホウソウ)を月 禁物なりとこく

つたりもする九条いかなれる山城の土

そらくして当歌 山城の瓜や茄子をそのも

もの中にて芸州川のうちとおなじ

梨(ナシ)

山賊の園 垣内 新場 紫の浦

彩蒔(ニシキマキ)地 重吳棚 禁中の垂

梨花一枝春帯雨とよめる妃の姿と梨花白雪香

とよめる張公太谷之梨と文選よりもちゐ 松のハ

両雌梨(カタナシ)をすゝめしとかや 粉臓迷春 二月満枝

誤随(マヨヒテ)秋日(ニ)弄芳菲(ヲモテアソブ)とも九月梨の花を愛ずる

梛(ナギ) 外面 林山 榊 社 さか山

われ 山

風そよぐなぎの小門の夕ぐれも

なぎてふ云々

ろすとぶんこいふ事 百のものを一つにあつめてとゝのへたるをいふ

ナツメ
棗 果入 奥州 仙家

生姜（ショウガ） 垣根（カキネ）

わらうべ なけものらつのそと古人物かよ
りり北越雑心之棗と張文成（チャウブンセイ）が筆し棗の核（サネ）
食（クラ）ふる蔓（ツル）うんとくらつ 死もろとも 王吉が隣（トナリ）
の棗と吾が婦とりてくらひれいも婦とおひ
うらくち 鮑焦（ハセウ）が山中にて棗とろふ くらひそい
汝が植（ウヘ）るうと逐（オヒ）よりて死（シ）こり

南天（ナンテン） 炉北（ロホク） 名のよりまた 強（コハ）き意

除救（ヨケ） 疫病（エキビヤウ）の呪咀（ジユソ） 教示

秋のけるきハ蝿（ハエ）のわらひ水洋のわらひ牡しとそふ
こそめくれ。水洋のわらひ牡しとそふ
落（オチ）そて色（イロ）ハうつ紅（クレナイ）みづる梅りよ付よ
と同じとそれともそ
むうけふさうろそ
ゆしが喉痺（コウヒ）をまもりて 箸（ハシ）よりづりて頂
あるとそ

ナミタ
濫川 伊勢 淳（ジュン）名井（ナイ）みるあり 柵（サク） 丸木柵

同 越中ニ 君ゞりゞさ

遠江ニ同名あり 永代

君ゞ代（ヨ）くゝ種の貝 まゝの教 傘

ナルミ
鳴海 尾張 渡 浦野 浮濱 沖海寺

呼續（ヨビツギ）楊 ふる浦 ふる 鯛（タイ）鮒（フナ）

濱（ハマ）檜（ヒキ） 塩竈（シホガマ） 乾（ホ）こひ 空貝（カラガイ） 蛍（ホタル）沢虫

捨衣（スゝ） ふゝし刈 上野の名 塩満

ナトリ
名取 陸奥 河郡（コホリ） 湯（ユ） 信夫（シノブ）の系 流木

小山田 堰木（セキモク） ふる 螢（ホタル） 時ふる

ふる 逸漁（イサリ） やる名の浜 老女（ラウヂヨ）

称ようつゝ 狂云

同（オナジ）ふこる みるあ刈 蛍

ナコソノ
奈古曽の関 ふのみの里 ありねざめ 時ふる

お夜野路（ヨノヂ）の川 山ちゝ そこ

松嶋 奥 東路

那智 紀伊 三重 [illegible]
[illegible] 一ケ [illegible] 往訳 [illegible]

名草 ナクサ 同濱浦山 [illegible] 枩 [illegible] 海松布

鳴門 ナルト 河波 浦仲 淡路 [illegible] 那古浦 濱庇
[illegible] [illegible] [illegible] [illegible] 通盛 小宰相の局 [illegible]
[illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible]

那須 ナス 下野 由利 [illegible] 大方紙 上市宗 [illegible] 温陽 [illegible]

長浜 肥前 [illegible] 綿 [illegible] 手拭 [illegible] 萩焼物 牛 [illegible] 火打 [illegible]

長門 ナガト 銀銅 下関鰕 [illegible] 拇鮎 三寓員 集人の神
和布刈 豊浦乃 [illegible] 門司 [illegible] 赤間

類聚三之巻 終

菜酒 緑青 暦 団扇 土風炉
刀 [illegible] 瓜漬 [illegible] 灯 飯鮓 饅頭

法論味噌 猿楽 法師 麻 東大寺
奥福寺 大仏 般若坂 [illegible] 新の [illegible]

二月堂 春日 八重桜 このよ指 三位
帝 [illegible] 針 濁酒 佐保山 水 [illegible] 四月 盲

夏箕河 ナツミ 同吉野 鴨 蛍の羽衣 [illegible] 月夜
[illegible] 蛍 [illegible] 白木綿 [illegible]

波激 ナギサ 河内 思 [illegible] 森 院 交野 紀 [illegible]
梅 [illegible] 北 鴨 [illegible] 旅ね

難波 摂津 崎漲 海 [illegible] 沖津白波
梅 [illegible] 浦 [illegible] 渡 里far
網引 海士 [illegible] 漁火 [illegible] 蘆 蛍
芦 田 [illegible] 芦の [illegible] すゝたく火

芦鴨大文人 里長の鴈 灘の捨糸
児屋の松原 ミツの浜の濱

雄仁徳天皇

長柄 同橋 淀浦 若代
ナガラ

○長等 芦屋 雄波 住吉の松 さゝれ石 友鶴
ナカラ 近江 志賀 幸浜 大津里 肥後 緑糸

三ノ山 今ノ文 柴舟 安居院 砂

弁代松 法花 桟原 麻

七社
ナヽ

近江 三津濱 日吉 六道 非恒 三笠

長浜 伊駄 住吉 池

ナガハマ

長居浦
ナガヰノ

時雨 松原 網
ナルヲ

鳴尾 同 沖浦 和歌浦 入江 生駒山

泊瀬 鹿 みかの川 持衣

ちくにおりそめ 鴈 ひとつの秋 白
おくれとくるあり ぬるも 秋の梅よ 我と
ぐめぐる人 元安の
秋の月 里 ありひやう同 ゆふ
ひじり 末摘の 花
ナキ

歌 会 乱世 貧乏
ナヽキ

独寝 散花 松原 詠人 元合
サセン 立 立

世中を 梅 入 人 楊妃 妃
ヤナキ

だに 秋 月 夜 夜
ナガサ

人のうけ 記念 舟 浪 船
カタ

添 月 月 日 庚申
エカウ

こぬ人 待 夜 日 庚申
ナガサ

めぐなき おぐら

とひろげてこねものくさとするぞこよなうなぐさむるさとりとうけつ

名所　嵯峨山　河　山虎（ヤマドラ）　八塩の器　岩倉

長谷　みつさーの器　紀家

並器（ナラヒノ）　同　麓（フモト）の寺　ほうげ草　刈萱（カルカヤ）　堂（ヤウ）

仁和寺　さが野　和紀家　大内山

桜の白器　おもての月　廣澤（ヒロサハ）　鳴滝

鳴滝（ナルタキ）　同河　祭九月廿日　黒こて波（ミヅギ）　秋

ゆうべの器　和川　亀石　磁（ジ）石

中川　等持院　廣澤　竜安寺

同　宿　深山（ミヤマ）　秋（ミヅキ）

くくぐく　琴の音　なくこえ

あさ紀契　光源氏　蜘蛛（クモ）の巣　碁　星合

長器　同　田つくり　蓑（ミノ）　革の類

奈良（ナラ）　大和　坂里　都　舟宮　道

油煙（ユエン）の器　ちくご布（ヅノ）　付（ツケ）硯（スヾリ）

いとこまかなるものびさよろう

投（ナグル）　英彦　深川　すまふ　うつぼ

投手　筆　石　拉（ヒシギ）　箸木（オモニ）　三重箱

仏生会の阿育王八万四千の塔を造（ツク）り十方へ抛（ナゲ）

のひとつ　弘法大師　八尖塔より三鈷（サンコ）を投（ナゲ）

のごとく　文章（モン）をなぐるとうや云。唐人よハなぐ

げ物そやろうるる。なぐるとうや。みつさ紀負（カヲ）

なり。みつさ紀負（カヲ）よハ木実（コノミ）をなくるとうや

亜（ナラル）　座配（ザハイ）　腰（コシ）抜

中たがひ　法害　碁の目　形（ケイ）勢

詩文のごハ字通の批判（ヒハン）するべし。ゆうべの牛（ウシ）を殺（コロ）ハ不調法

ハなしとうかし。船と牛とをかへてなくるとうや。ムシロ名指（ナサ）のくだ

のわざぞ。切（キリ）麻（ソ）ハ日を経てなくるとうや。

ところかの里も移りてなくるとうや

もとハ女のを。流人の袖洗（アラ）ひてなくるとうや

南蛮（ナンバン）　菓子（クハシ）　酒（サケ）　秬（キビ）

吉利支丹（キリシタン）　木綿（モメン）　紗（サヤ）

青苧（カウヂ）　土の焼物

文字など船迷でざれバ訓ともなく。邪法をすゝむるの
とのへば日々の教ぞと南蛮駄吉之又非先王
之道と孟子の詞へ

南京 ナンキン 紗綾 サヤ 染付の絵 ぼんぼて 木綿 モメン 糸 絲

りろにし 舟のたやをとゝろねるよ 毛氈のおもて
のことわりつゝそ 布せてくらいてくらいてくらいて
魚なもめり。五ケ和の賣買入ハ毎のもちを
こと耳をうつくるわざぞ〳〵。第拾なくて
うなそねおとろや

永日 ナガヒ 次ノ 亮の代 永祚 元祚

旅宿
なが日をれまるれバうらゝの田ものりすうとうげて
ても帯木よそくさうり。田ものりすうとうげて
物るものがわざ〳〵。浦島ハ堪を滋すもなくてさ
ひつまくのなかめやまさ。洞川ともありぎ長日
よ衣ひうことをくもやや七日〳〵ふうか七夜こもや

源 ミナモト 河 夜 月 花 注 エンケイ 寺 泰 ヤスシ

絵 名所 書籍 ショセキ 霖雨 リンウ

ト謎の公なり。祇つこのふうひとよ
うて謎の神とやよとき

流 ナガル 蝋燭 質物 イモノ 盃 杯足 鞠 かる遊。

スうろバ 松やに 雁頂 ガンボウ 疊の表 筵 イグサ 汗
延 ノベ 泪 涙 扇 あふぎ

うき名 美の御 砂の上 吉田川の
うれめ やまひ 水の上 暗わるう 血

遠近 昏 ヲチコチ 鏑矢 カブラヤ 筆 ふで 翰如流 カンジョリュウ と伝ハ乗 ノル 馬
倪 カタブ 月 ことになぐ
そともるくさうろひ ぼうろみ 布
治の眺 ながめ 布 ぬの の川 ぬの 祇 ギ を ぬの
治 ぬの 矢 ぬの 泪 涙 ぬの 武者 ムシャ ぬの
とろ〳〵と忠 ツブサ に 忽 タチマチ 物

あざれ 皃 カホ 美入の業 灸 キウ の膿 ウミ

いと易き 容易 ヨウイ 仕業 シワザ 山 うるやく
なれ。在 ザイ の 砂 スナ より 自 ヨリ 自 ヨリ のそげ 注 ソソ ぐ
なしそのまゝ大なるうるえそれ物
うじ 蛆 ウジ のうごめく 衣裳 イショウ をけがす

そそのかす
馴（ナル）　旅　味噌　鮓（スシ）　新枕　女房
馬　同　男　飼（カヒ）より
なれてつがいふぶ〻こうのとりも
くさるみかわれくろい文字男こ弟よすめ〻弟
うれ　思（イナカ）うまめ田舎なかうく　おとこう　多枕旅
孫の客かいくらびっ　うう　教（オシ）より　ゆうしん
耳こそがれ　めしとうしうり
刀（カタナ）のうく　冬のうひす　流
かまびす
殖場（シンタウ）の風呂の接待（アイサツ）皆なもうけるく　浮世（ウキヨ）
の鉄瓶（リン）大こ　おまるく　教（オシ）えてほと
いひ〻もなもうろうや　町人こそ弟そそいよ
せきもり　もなり
靡（ナビク）　文のうく　簪（カンザシ）　風すこも　仁（ジン）
草木行　すこ柳
おりたうのうこにうなるうこはまなよびく
もの向ともかからつこれもちかんのみよもうこれおり
そびこ弟い風次第こ　風民（フウミン）いまのみよもり　浮（ウキ）
ぐれのうこうふすこ向のはまのもやくうり風と

古序（ジョ）に娶妻（シュサイ）莫恨無良媒（ナカウド）書中に有女顔如
玉と勧学文なり心期（キゴ）片月に欲為（ナラント）媒（ナカウド）とい七夕
詩に拍木歩つい娘よ
ほかよりかいうもう
ナルカミ
鳴神　夕立　塚の前　降（フ）によりつ風
素戔嗚（スサノヲ）　女をめとし　逃（ニゲ）
東夷（アヅマエビス）のく　賤（カンケ）　農家
矢口のわたし　異界の酒　涙の雨
おり雨　よいさろうおう
ぬれぬなとや　立のわたし　二人のるけ
うこさをのけしくさや
なる雨のとくなりと
入ようなりてわりこ
雨なわり　こくとなる
ろうくりうすのこ
とい夕魚餐（サカナ）なり
ナカケ
中（ナカ）　親子の雨　夫婦（フウフ）のむつ
旅の宿　もこまうれぬ　非（ヒ）
情なくおうくつうこ　つれぬ

梅のさら粉をとりまぜ
こねたものをいれてなつめ
なり。粽名をそそけ
よく洗なくつまをえんずるとお
なじよわり

余波（ナゴリ）

旅さ（ゆき）
連句
石塔（セキトウ）　条の法
其のあるうちいわ俗し
二度逢うことおりふしに
あとをとうひいさよひめし大物（ダイモツ）のうらの出井
かしこい静御前つ
多なくそつぬかうりあま
ぐそ　甲子の夜　日御
ぐそ

謎々（ナゾ）

大覚寺殿
ワのことはそいそ
うくつきと拾遺よ
を謎は五八と俗
碑の背（セナカ）よう八字
と見そおなじよう

白馬節会　盆わり　星祭
菜摘（ナツミ）川の秋草　吉野と吊（トムラ）婦
雲雨　彼岸　狐園会の葬　説法
浦嶋うき葉よ
あなり。君うん八百万代とそれいろく
そ七日ごろ。一行阿闍梨ぐ
百七夜をとぶとく

鬣（ナツジ）

刀の鞘（サヤ）　地震　人の肌（ハダ）　瓢箪（ヒョウタン）　池
竹生嶋　弁才天

泥（ドロ）ある場の底（ソコ）
の池も大なるもとそ
てそうといひなくそ

膽（ナベス）

朝日　廿八日　祝言
祭　言（ユイ）
膽（ナベス）の魚細と並人の沿（ソ）
やうとよこしい晋唱公翰う帝

…ゑを…烈り洞盤…
八仙術なり○南孝…兼…
て…ろり

ナトウ
納豆 汁 …寺 …名

寺の…
サゼン
作善の…非時一山の…
…てなり○浄福寺の…納豆…
仏…や…ろ…や…頭…
の信作なり

ナンニヨ
男女 四条五条の…の上 …産…

ひろみ…
飲食男女人之大欲存焉○礼記の…懐胎
の男女を…医…○男女左右の…
別わろ…脈をとり灸…
ろて男女をこりろ…と恩重経…男女
不二六十不同居と…古人の禁言ぞ…

ナカダチ
媒 茶湯 …の…戸 …

わつひ…
…食之客以此…為活計之媒…

狂老幼攀轅 …ス…ス…驥服塩車上大行中坂
要延負轅 不能上伯…
…社倉輸の…

ソリノヘ
筑摩祭 銭茶酒料理

ナベ
鍋 河内 …

狂言…鶏…
なべ…ておろ…
なべ…
…

長 ナガキ

鷺の頸 …
秋の夜 髪文字 猿猴の…
萩の花…
野田の…
蛸の…
…

三鏡とうたひしいにしへの齢のながきも今六稀なる事なれば。皆不合なるの世にしも。三万餘年とうや。鼻毛のちぢみ鉦なんどいふ事の上下いちじるくひとうや。水遠山長和殺人ふうにてまた紀小村しの糸いと惜の山なんどいふ事のちぢみ紀のちいさき人へ蜀先主身長七尺五寸無学 鼻長七寸ぞ。務光う耳ハ長七寸ありしとぞ

永日

支那の人皆苦炎熱我愛夏日長ふと東坡の詩から。

越ゆくしく 花をめづる 春宮花中調うる琵琶

機の糸 唐昌の軒 侍女ども

刀 小田の老ぞうが愛刀 行院君岡鎗永日ふと朗詠ぐらいなるべし。

うめ父うかの秋阿を笑しぬおりへ

ふる苔の秋の夜さいつさせうりうる春のひく

うう。春永寒さ日しいとうすしのいてうすこうりとふ云ふのもの

稽古着 素法衣の供のうけうりの

刀ふるといふ白乳そふ

そ。やおれぞうといふ紀つ

義のもう刀わり。祇園会の浄明心の人形ハ二人

ともにも刀わり

菜刀

ナカスナ

もつる 多棚 下女

納豆ハ乳とりそたうぐ鏡餅ひらく 臺所

ひとうる何いもも乳のうちうて合すぞり名物

うあぐうるそうわうハうれいなうず

瓠

花 松 大豆 壁のすき 垢

生木 紙谷入通

かうこの様さ下部の拍子木

なれうも伽羅とうるなうこうらくうぐ

おほうるうる新ういうる紀笠のうふうれ。並

末の松のこうるハのうりてすうれをし 青山

ようて検者とうふあり。香うおうる七月

縄

鈎縄 注連 帯 手繦 拷 蜘蛛
舩の帆 牛馬 米俵 かうひき
囚人 荷作 堺目 犬猿 仕切
暖簾 簀子 網 地獄 不動 盗人
あやつり 長年 垣 皷 舟の碇

蓬窓高臥雨如縄と山谷がいへるはよるの縄也。
巌縄ハてまうけの程ハ礼物の用をもかし実の火ハ
八竹東福寺あたりの火縄ハもめん糸也。天照太神岩戸
とおさせたまひし時端出之縄ハもとしめのはじめ
刻え縄を結ひし古も世をうれへたる人やなき
みの字はよしあしのことなる事を訴ふるや訴ふる
のとけてまかりふ。我ハ縄あへ下ハ民のをしへ
たくみの其の命をもとむる。一のなはは物いハ
かのもとの人のうちとこなの足てとちかふ

轅

轅 槍 銚子 魚肉 嫁入 物見
元服 鉤を捨扱 休息所

劉皇手をとく道を行のん車の轅打ちをる
あさかほえずして再梭するとそれより轅とか
らへて陣よりせしいさうしき軍配が漢秦彭

わくびうし 鬼 幞 葬礼

望雲騅ハひざをおりて泪をながせしとか
こうのあとの程ハ物の泪を齊王の牛山まで
おかされし泪ハ死をうたぎてよき女の二女の泪を
竹とそめしハ良少将がそでせんまでなかし涙を
襄陽の血の涙ならでなつかしきにみぬれ
杉の泪河父にうつぬ三なりける。習ゐ袖をぞ百
姓於峴山建碑望其碑者莫不流涕す。こゝにも
世俗よこれを堕涙碑といふ。明妃去時涙洒向枝
上花とよめしハ昭君の事。玉容寂寞涙欄干
とハ貴妃のことをよめり。袖よみなぬるさえくりか
へし涙のかわかぬハいかれいひのうへな涙おくして
とびよりよりハおそれ多とんてそうつけおこし
なきさとるとあり

若木立

わかし 位 いまけなき中 石塔
一夜の契を 世をうつし人
稚子 かごの妹 しら秋の月 桜も
吉野の滝 錦木 位牌 辛抱

孝謙帝ハ道鏡法師ヲ溺愛シ玉ヒ六角堂ノ法師トシテ女院ノ愛寵ト同私セラレ妖孽ヲ降セ
なり。女院ハ愛寵ト同私セラレ妖孽ヲ降セ
ラレシ。中興近江助ノ姫ハ浄麗ニ
とそ。藝能不作ニ
女三ノ宮ハ稲荷ノ
ようなのこと

若宗

木の丸殿　関軍陣　刈萱ノ宮
嵯峨　判刀　相生
嵯峨　連哥　短冊　笛　花多井ノ君
揚弓　十炷香

作ル木曲帝ノ綱ノ教ノ
ヲ防ルヘシ

なんとハ勝月夜ノ
菊王ノ牧狩ヨ歌ヲ

長刀

香箱　人形
祇堂　ヲノノ
静　浄瑠璃ノ

熊坂　外科
端午ノ節句　紙

苗代

沢ヲ　ノ
根芹　洞
えぐノワ
苔ノ
ヲ
ニ
ノ
ノ

波

満汐　沖津風　清ク澄ヘ　汐
雁ノ　ノ　蛙　柳　村竹　ノ
網代　白ヲ　尾花　稲ノ穂ノ
花ノ渚　ヲノ　ノ　稲葉

浦売　年　額
額水波揚ケ　耳清ク　許田ノ
ノ波ノ　ノ　ノ　ノ
ノ　ノ　ノ　ノ
ノ　ノ　ノ　ノ
ノ　ノ　ノ　ノ
ノ　ノ　ノ　ノ
ノ　ノ　ノ　ノ
ノ　ノ　ノ　ノ

額　萩
ノ　ノ
ノ　ノ
ノ　ノ
ノ　ノ
ノ　ノ
ノ　ノ
ノ　ノ
ノ　ノ

渚（ナギサ） 水ぎわ 澳舟 白沙 うら曲
塩屋 ふき 松（マツ） 海苔（ミル）布
人ぐろ 鯨の一種 くてぐろ 大ぐろ
をぢぞ魚けんが お関魚（ヤセ） 屋落（ヤセ）の内裏（ダイリ）
の法（ホウ）しんぞ正（ショウ）をうなぐ（ウナヅク）
と海せつよ幸（サチ）ある流れ
の七瀬（ナナセ）の河を幸（サチ）ある法（ホウ）よのこうじなり

灘（ナダ） 塩汲 明石
芦屋 播丁

涙（ナミダ） 恨なけるも
こひまね夜 妻の余波（ナゴリ）
袖の乱（ミダ）れ 立名うとめて 形見の衣
妻恋 着衣姫（ヒメ） 恋重 麻
屑 罪うる男 竹てうたうぐひす